

## **Oracle® Hyperion Enterprise Performance Management System**

インストール概要

リリース 11.1.1.4

#### EPM System インストール概要, 11.1.1.4

Copyright © 2007, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

---

# 目次

---

ドキュメントのアクセシビリティについて .....	7
<b>第 1 章 インストール・ドキュメント・ロードマップ .....</b>	<b>9</b>
<b>第 2 章 EPM System 製品の理解 .....</b>	<b>11</b>
EPM System 製品の説明 .....	11
Foundation Services .....	11
Essbase .....	12
Reporting and Analysis .....	13
Financial Performance Management アプリケーション .....	14
データ管理 .....	15
アーキテクチャ .....	15
Foundation Services .....	15
Essbase .....	16
Reporting and Analysis .....	16
Financial Performance Management アプリケーション .....	17
データ管理 .....	17
サポートされるプラットフォーム .....	17
ディスク・スペースと RAM .....	18
クライアントのディスク・スペースおよび RAM .....	19
サーバーのディスク・スペースおよび RAM .....	20
EPM System ソフトウェアの依存関係 .....	22
ランタイム・クライアント .....	23
<b>第 3 章 インストールのプランニング・チェックリスト .....</b>	<b>25</b>
インストールのプランニング .....	25
製品に固有のインストール・プランニング .....	32
<b>第 4 章 リリースの互換性 .....</b>	<b>33</b>
この章の表の読み方 .....	33
Foundation Services のリリースの互換性 .....	33
Foundation Services の互換性の表 .....	33
Essbase のリリースの互換性 .....	36
Reporting and Analysis のリリースの互換性 .....	38

Financial Performance Management アプリケーションのリリースの互換性 . . . . .	40
データ管理のリリースの互換性 . . . . .	42
<b>第 5 章 環境の準備 . . . . .</b>	<b>45</b>
データベースの準備 . . . . .	45
Oracle Database の使用方法 . . . . .	46
Microsoft SQL Server データベースの使用法 . . . . .	49
IBM DB2 データベースの使用法 . . . . .	51
Web アプリケーション・サーバーの準備 . . . . .	56
一般的な注意事項 . . . . .	56
Oracle Application Server . . . . .	57
Embedded Java コンテナ . . . . .	57
WebLogic Server . . . . .	58
IBM WebSphere . . . . .	58
Web サーバーの準備 . . . . .	59
Oracle HTTP Server . . . . .	59
Microsoft Internet Information Services . . . . .	59
32 ビット/64 ビット Microsoft IIS 6.0 のサポート . . . . .	61
Financial Management の Web サーバー環境 . . . . .	61
Web ブラウザの準備 . . . . .	61
ブラウザの設定 . . . . .	61
ActiveX を使用可能にする (Reporting and Analysis) . . . . .	62
<b>第 6 章 ポート . . . . .</b>	<b>63</b>
デフォルトのポートと Shared Services レジストリ . . . . .	63
アプリケーション・サーバーまたは Web サーバーのポートの変更 . . . . .	64
SSL ポート . . . . .	64
Foundation Services のポート . . . . .	64
Shared Services のポート . . . . .	64
OpenLDAP ポートの変更 . . . . .	65
EPM Workspace のポート . . . . .	67
構成と監視コンソールのポート . . . . .	68
Performance Management Architect のポート . . . . .	68
Calculation Manager Web アプリケーションのポート . . . . .	70
Essbase のポート . . . . .	71
Essbase のポート . . . . .	71
Administration Services のポート . . . . .	72
Provider Services のポート . . . . .	72
Smart Search Command Line Utility のポート . . . . .	73
Essbase Studio のポート . . . . .	73

Reporting and Analysis のポート .....	74
Financial Reporting のポート .....	74
Interactive Reporting のポート .....	75
Web Analysis のポート .....	75
Financial Performance Management アプリケーションのポート .....	76
Financial Management のポート .....	76
Planning のポート .....	77
Performance Scorecard のポート .....	78
Strategic Finance のポート .....	79
Profitability and Cost Management のポート .....	79
データ管理のポート .....	80
FDM のポート .....	80
ERP Integrator のポート .....	81
Data Relationship Management のポート .....	81
<b>索引</b> .....	<b>83</b>



---

# ドキュメントのアクセシビリティについて

---

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

## Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。





# 1

## インストール・ドキュメント・ロードマップ

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System のインストール・ドキュメントは、Oracle(R) Technology Network の [Oracle Documentation Library](http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)にあります。システム要件は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックス (<http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html>)にあります。

特定のリリースのドキュメントにすばやくアクセスするには、Enterprise Performance Management Documentation Portal (<http://www.oracle.com/us/solutions/enterprise-performance-bi/technical-information-147174.html>)を使用できます。ここには、EPM Supported Platform Matrics、My Oracle Support、およびその他の情報へのリンクも含まれています。

このガイドを、EPM System 製品のインストールおよび構成のプランに役立ててください。Oracle Technology Network の Oracle Documentation Library で、このガイドの更新版を入手できるかどうかを確認してください。

表 1 に、基本的なインストール・タスクの実行手順に関するドキュメントを示します。

表 1 必須ドキュメント

タスク	関連ドキュメント
インストールのプランニング	このガイド『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』と、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックス ( <a href="http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html">http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html</a> )のシステム要件。
<ul style="list-style-type: none"><li>● EPM System 製品のインストールと構成</li><li>● EPM System 製品の自動配置</li><li>● EPM System 製品の開始</li><li>● インストールの検証</li><li>● EPM System 製品のアップグレード</li></ul>	『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』
EPM System の保護およびユーザーのプロビジョニング	Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド

表 2 に、追加のインストール・タスクを行う必要がある場合の参考ドキュメントを示します。

**表 2** オプション・ドキュメント

タスク	関連ドキュメント
EPM System 製品の手動配置	Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System マニュアル 配置ガイド
インストールのトラブルシューティング	Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストー ルおよび構成トラブルシューティング・ガイド
製品およびアプリケーション・データのバック アップの作成	Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System バックアッ プおよびリカバリ・ガイド
環境間の移行	Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイ クル管理ガイド
SSL を使用可能にする	Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System SSL 構成ガ イド
EPM System アプリケーションの高可用性のた めのクラスタリング	Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System 高可用性ガ イド

---

**この章の内容**

EPM System 製品の説明 .....	11
アーキテクチャ .....	15
サポートされるプラットフォーム .....	17
ディスク・スペースと RAM.....	18
EPM System ソフトウェアの依存関係 .....	22
ランタイム・クライアント.....	23

この章は、配置アーキテクチャ・プランの参考にしてください。

**注：** 必要な製品コンポーネントおよび製品のオプションを確認するには、[Oracle\(R\) E-Delivery](http://edelivery.oracle.com/)(<http://edelivery.oracle.com/>)の Media Pack Readme で確認してください。

EPM System 製品のプライマリ・ファミリ:

- Oracle Hyperion(R) Foundation Services
- Oracle Essbase
- Oracle Hyperion Reporting and Analysis
- Oracle Hyperion Financial Performance Management アプリケーション
- Oracle データ管理

**注：** EPM System 製品を Oracle Business Intelligence Enterprise Edition および Oracle Business Intelligence Publisher に統合する方法については、『Oracle Business Intelligence 新機能ガイド』および『Oracle Business Intelligence Publisher 管理者および開発者ガイド』を参照してください。

## EPM System 製品の説明

次の項では、EPM System 製品について説明していきます。

### Foundation Services

次の表に、Foundation Services 製品を示します。

製品	説明
Oracle Hyperion(R) Shared Services	<p>Shared Services は、EPM System 製品を統合してユーザー・プロビジョニング、ライフサイクル管理およびタスク・フロー管理を実現します。また、インストールしたほとんどの EPM System 製品の情報を保管して再利用することで、製品の構成を簡素化する中央リポジトリである Shared Services レジストリも提供します。</p> <p>注： Shared Services を UNIX 上で実行し、NTLM を使用してユーザーを認証する場合は、Oracle Hyperion(R) リモート構成モジュールも含まれます。</p>
Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition	<p>EPM Workspace は、EPM のコンテンツを処理するための一貫した対話型シンクライアント環境を提供します。EPM Workspace は、次の製品の Web クライアントです：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Reporting and Analysis</li> <li>● Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition</li> <li>● Oracle Hyperion Profitability and Cost Management, Fusion Edition</li> <li>● Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition</li> <li>● Oracle Hyperion EPM Architect, Fusion Edition</li> <li>● Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition</li> <li>● Hyperion Calculation Manager</li> </ul> <p>さらに、Oracle Business Intelligence Publisher と Oracle BI EE を EPM Workspace と統合するように構成できます。</p>
Performance Management Architect	<p>Performance Management Architect は、財務アプリケーションを中央で作成して配置できるようにします。Performance Management Architect が備えている視覚環境により、データ、次元、アプリケーション論理などの財務ビジネス・プロセスをモデル化するための単純で直観的なユーザー・インタフェースが提供されます。</p> <p>Performance Management Architect は、次の製品と連携します：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Calculation Manager</li> <li>● Planning</li> <li>● Financial Management</li> <li>● Oracle Essbase</li> <li>● Profitability and Cost Management</li> </ul>
Calculation Manager	<p>Calculation Manager は、Planning、Financial Management および Essbase のユーザーが、グラフィカル環境でビジネス・ルールを設計、検証および管理できるモジュールです。クラシック Planning および Financial Management アプリケーションのユーザーは、Calculation Manager または Oracle Hyperion(R) Business Rules を使用して、ビジネス・ルールを設計および管理できます。ただし、EPM System アプリケーションのユーザーがビジネス・ルールの設計と管理に使用できるのは、Calculation Manager のみです。</p>
Oracle Hyperion Smart View for Office, Fusion Edition	<p>Smart View は、様々な EPM System 製品(Essbase、Financial Management、Planning および Reporting and Analysis)に対して、共通の Microsoft Office アドインを提供します。Reporting and Analysis リポジトリのコンテンツをインポートして、Oracle BI EE のデータに関するアドホック分析を実行することもできます。Smart View を使用すると、Microsoft Excel、Word および PowerPoint のインタフェースでデータの表示、インポート、操作、配置および共有ができます。</p>

## Essbase

次の表に、Essbase 製品を示します。

製品	説明
Essbase	Essbase は、カスタム分析やエンタープライズ・パフォーマンスの管理アプリケーションを短時間で開発できる環境を提供するビジネス分析サーバー・テクノロジーです。たとえば、Essbase を使用することにより、事業部門の担当者が複雑なシナリオをモデル化し、ビジネス・トレンドを予測して、what-if 分析を実行する分析アプリケーションを開発および管理できます。Essbase のクエリー応答時間は、莫大な数のユーザー、大量のデータ・セット、複雑なビジネス・モデルでも非常に高速です。あらゆるデータ・ソースに対してホットプラグブルです。
Oracle Essbase Administration Services	Administration Services は、Essbase 対応のクロスプラットフォーム管理ツールです。管理サーバー(Java 中間層サーバー)と Essbase 管理サービス・コンソール(シンクライアント・コンソール)から構成されています。
Business Rules	Business Rules は、Administration Services の一部としてインストールおよび構成され、Essbase の Essbase サーバー・コンポーネントに関するビジネス・ルールの作成、実行および管理を支援します。Business Rules により、変化するビジネス・アプリケーションのニーズに対応する時間の改善、アプリケーション開発サイクルの短縮化、ビジネス・ユーザーの生産性の向上、アプリケーション・コンポーネントの再利用の強化、および分析アプリケーションへの投資に対する総利益の向上を実現します。  クラシック Planning は Business Rules と連動します。
Oracle Essbase Integration Services	Integration Services の一連のグラフィカル・ツールを使用して、Essbase データベース、OLAP モデルおよびメタアウトラインを作成できます。
Oracle Hyperion Provider Services	Provider Services は、次の製品の中間層データ・ソース・プロバイダです： <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase</li> <li>● Planning</li> <li>● Oracle BI EE</li> <li>● Smart View for Office、Java API (Essbase データのみ)</li> <li>● XMLA クライアント(Essbase データのみ)</li> </ul> <p>このソフトウェアは高度な同時分析シナリオをサポートし、分散 Web 対応のエンタープライズ環境に拡張性と信頼性をもたらします。</p>
Oracle Hyperion Smart Search Command Line Utility	Smart Search Command Line Utility は、主要なエンタープライズ検索ソリューション(Google Search Appliance および Oracle Secure Enterprise Search)と統合して、使い慣れた検索インタフェースを提供します。ユーザーは単純なビジネス・テクノロジーを使用して、Essbase アプリケーションおよびデータベースから構造化された情報を取得できます。ユーザー権限に従ってフィルタリングされた情報は、Smart View for Office のデータ・グリッドおよびライブ・リンクに配置されます。
Oracle Essbase Studio	Essbase Studio は、キューブ構築アクティビティを 1 つのインタフェースにまとめ、データ・ロードおよびアウトライン構築を一定のパフォーマンスで実行できるようにします。

## Reporting and Analysis

次の表に、Reporting and Analysis 製品を示します。

製品	説明
Oracle Hyperion(R) Interactive Reporting	Interactive Reporting には、ユーザーが直接操作できる直観的なクエリーおよび分析機能があります。このビジネス・インテリジェンス・ソフトウェアは、インタフェースを介してこれらの機能を提供し、ユーザーがダッシュボードを作成して、関連情報を監視およびナビゲーションできるようにします。
Oracle Hyperion Financial Reporting, Fusion Edition	Financial Reporting を使用すると、法規や外部の要件に準拠し、フォーマットされた高品質の財務管理レポートを生成できます。Financial Reporting は、経営効率の管理や向上に役立ちます。
Oracle Hyperion(R) SQR(R) Production Reporting	Production Reporting は、プレゼンテーションに使用できる大量のフォーマットされたレポートを生成し、データのソースが多様な場合でも類まれなパフォーマンスを実現します。Production Reporting は、エンタープライズ全体の主要ビジネス・アプリケーションからの情報を一元管理して、キー・メトリックに関するビジネス事情を示します。
Oracle Hyperion(R) Web Analysis	Web Analysis は、オンライン分析プロセス(OLAP)分析、プレゼンテーション、および拡張エンタープライズのレポートを提供します。

## Financial Performance Management アプリケーション

次の表に、Financial Performance 管理アプリケーションの製品を示します。

製品	説明
Planning	<p>Planning は、プランニング作成、予算編成および予測の集中管理ソリューションで、財務および業務のプランニング・プロセスを統合します。Planning は、財務および業務のプランニング・モデルを密接に統合することにより、ビジネス業務とそれが財務に与える影響を徹底的に検証します。Planning により、差し迫った財務プランニングのニーズを満たすことができ、将来の相互機能拡張や自動化プロセスの統合も可能になります。</p> <p>Planning の管理者は 2 種類のアプリケーションを作成できます。つまり、Business Rules を使用するクラシック Planning アプリケーションと、Calculation Manager のビジネス・ルールを使用する Performance Management Architect Planning アプリケーションです。</p>
Financial Management	<p>Financial Management は、グローバルなレポートおよび分析機能の集合を拡張性の高い 1 つのソリューションにまとめることのできる、包括的な財務システム・ソフトウェア・アプリケーションです。Financial Management は、最新のテクノロジーを使用していますが、企業の財務チームが管理および維持できるように構築されています。</p> <p>Financial Management のユーザーは、Performance Management Architect または Financial Management Classic を使用して、アプリケーションを作成できます。</p>
Performance Scorecard	Performance Scorecard は、Balanced Scorecard Collaborative 認定のアプリケーションで、会社が戦略と目標を明確に示し、それらを企業内に伝達し、キー・パフォーマンス・インディケータを監視するための支援を行います。このソフトウェアには、戦略と責任の完全なマッピング機能に加え、Web ベースのメッセージ・ボード、フォーラムおよびディスカッション・スレッドの機能があります。
Oracle Hyperion Strategic Finance, Fusion Edition	Strategic Finance は、代替企業戦略が財務に与える影響を経営者が特定して把握できるようにする財務モデリング・アプリケーションです。Strategic Finance ではモデリングと予測がすでにパッケージ化されているため、財務の専門家は代替戦略のテスト、危機管理プランの構築、およびそれらの戦略およびプランが会社の長期パフォーマンスに与える影響の把握にさらに多くの時間を費やせます。

製品	説明
Profitability and Cost Management	Profitability and Cost Management は、製品、顧客、地域、支店などのビジネス・セグメントの収益性を計算するために必要な、費用および収益の割当てを管理する分析アプリケーションです。このアプリケーションでは、費用分解、消費ベースの費用、および収益性を測定するためのシナリオを使用でき、業務における重要な決定をサポートするシステムを提供します。

## データ管理

次の表に、データ管理製品を示します。

製品	説明
Oracle Hyperion(R) Data Integration Management	Data Integration Management は、企業内の異なるデータ・ソースを 1 つにまとめる方法を提供します。たとえば、複数の倉庫とデータ・マート、リレーショナル・データベース管理システム(RDBMS)、およびオンライン分析プロセス(OLAP)ストアに保管されているデータを統合できます。
Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Fusion Edition	FDM は、Web ベースのガイド付きワークフローを介して、財務ユーザーが標準の財務データ管理プロセスを開発できるようにするパッケージ化されたソリューションです。このデータ準備サーバーでは、あらゆるソース・システムからの財務データを容易に統合して検証できます。データ統合費用とデータ・マッピングの複雑性をさらに低減するために、FDM には各種ソースおよびターゲット・システムに対応した EPM アダプタが含まれています。
Oracle Hyperion Financial Data Quality Management ERP Integration Adapter for Oracle Applications	ERP Integrator は、Enterprise Resource Planning (ERP) ソース・システムのメタデータおよびデータを Oracle Hyperion EPM ターゲット・アプリケーションに統合できるようにする FDM のモジュールです。Financial Management または Planning の Web フォーム、Smart View または Financial Reporting からドリル・スルーして、ERP ソース・システムの詳細を表示できます。
Oracle Hyperion Data Relationship Management, Fusion Edition	Data Relationship Management は、基本となるトランザクション・システムおよび分析システムが絶え間なく変更される場合であっても、企業がマスター・データ資産に一貫性を持たせることを可能にします。Data Relationship Management には、業界初のデータ・モデルにとらわれないマスター・データ管理ソリューションが組み込まれており、絶え間なく変化する動的なビジネス環境において、財務および分析のマスター・データを管理できます。

## アーキテクチャ

次の表に、EPM System 製品のアーキテクチャを層ごとに示します。各層にどのコンポーネントがインストールされるかについては、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

## Foundation Services

次の表に、Foundation Services 製品のアーキテクチャを示します。

製品	クライアント層	Web サーバー <sup>1</sup>	Web アプリケーション・サーバー	サービス層
Shared Services		X <sup>2</sup>	X	
EPM Workspace		X	X	X
Performance Management Architect	X	X	X	X
Calculation Manager		X	X	
Smart View for Office	X			

<sup>1</sup>Oracle Application Server が Web アプリケーション・サーバーとして使用されている場合は、Oracle HTTP Server も必要です。

<sup>2</sup>ドリル・スルー機能に必要

## Essbase

次の表に、Essbase 製品のアーキテクチャを示します。

製品	クライアント層	Web サーバー <sup>1</sup>	Web アプリケーション・サーバー	サービス層
Essbase	X			X
Administration Services	X	X <sup>2</sup>	X	
Integration Services	X			X
Provider Services	X	X <sup>3</sup>	X	
Smart Search Command Line Utility			X	
Essbase Studio	X			X

<sup>1</sup>Oracle Application Server が Web アプリケーション・サーバーとして使用されている場合は、Oracle HTTP Server も必要です。

<sup>2</sup>ドリル・スルー機能に必要

<sup>3</sup>ドリル・スルー機能に必要

## Reporting and Analysis

次の表に、Reporting and Analysis 製品のアーキテクチャを示します。

製品	クライアント層	Web サーバー <sup>1</sup>	Web アプリケーション・サーバー	サービス層
Interactive Reporting	X	X		X
Financial Reporting	X	X	X	X
Production Reporting	X	X		X
Web Analysis	X	X	X	

<sup>1</sup>Oracle Application Server が Web アプリケーション・サーバーとして使用されている場合は、Oracle HTTP Server も必要です。



## Financial Performance Management アプリケーション

次の表に、Financial Performance 管理アプリケーションのアーキテクチャを示します。

製品	クライアント層	Web サーバー <sup>1</sup>	Web アプリケーション・サーバー	サービス層
Planning	X	X	X	
Financial Management	X	X		X
Performance Scorecard		X	X	
Strategic Finance	X	X		X
Profitability and Cost Management		X	X	

<sup>1</sup>Oracle Application Server が Web アプリケーション・サーバーとして使用されている場合は、Oracle HTTP Server も必要です。

## データ管理

次の表に、データ管理製品のアーキテクチャを示します。

製品	クライアント層	Web サーバー	Web アプリケーション・サーバー	サービス層
Data Integration Management	X			X
FDM	X	X 注： Oracle Application Server が Web アプリケーション・サーバーとして使用されている場合は、Oracle HTTP Server も必要です。	X	X
ERP Integrator		X <sup>1</sup>	X	
Data Relationship Management	X	X		X

<sup>1</sup>ドリル・スルー機能に必要

## サポートされるプラットフォーム

EPM System リリース 11.1.1.4 では、Windows と UNIX の両方のオペレーティング・システムをサポートしています。製品でサポートされている Windows および UNIX のバージョンの詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックス(<http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html>)をよくお読みください。

次の表に、Windows にのみインストールされる製品のコンポーネントの一覧を示します。

**注：** 特定の UNIX バージョンのサポートなど、UNIX サポートでの制約については記載していません。

製品のカテゴリ	製品	Windows でのみサポートされる製品/コンポーネント
Foundation Services	Smart View	Smart View クライアント
	リモート構成モジュール	リモート認証モジュールを使用している場合は、Shared Services を Windows にインストールする必要があります。リモート認証モジュールは、Shared Services インストールに含まれています。
	Performance Management Architect	<ul style="list-style-type: none"> <li>次元サーバー</li> <li>ファイル・ジェネレータ</li> </ul>
Essbase	Essbase	Essbase クライアント(Oracle Essbase Spreadsheet Add-in)
	Administration Services	Essbase 管理サービス・コンソール
	Integration Services	Essbase Integration Services クライアント 32 ビット
	Essbase Studio	Essbase Studio クライアント
	Oracle Essbase Visual Explorer	Visual Explorer 付きの Smart View クライアント
Reporting and Analysis	Interactive Reporting	<ul style="list-style-type: none"> <li>Interactive Reporting Studio クライアント</li> <li>Interactive Reporting Dashboard Development Services</li> </ul>
	Financial Reporting	<ul style="list-style-type: none"> <li>Financial Reporting Studio クライアント</li> <li>Financial Reporting 印刷サーバー・サービス</li> </ul>
	Production Reporting	すべてのクライアント・コンポーネント
Financial Performance Management アプリケーション	Financial Management	すべてのコンポーネント
	Strategic Finance	すべてのコンポーネント
データ管理	FDM	すべてのコンポーネント
	Data Relationship Management	<ul style="list-style-type: none"> <li>クライアント</li> <li>Web サーバー</li> <li>アプリケーション・サーバー</li> </ul>

## ディスク・スペースと RAM

この項では、EPM System 製品のクライアントおよびサーバーのディスク・スペースと RAM の要件について説明します。

## クライアントのディスク・スペースおよび RAM

この項の内容は、Web ブラウザ・クライアントには当てはまりません。

ディスク・スペースおよび RAM の要件は概算です。インストール・プログラムが、製品のインストールの選択内容に基づいて、必要なディスク・スペースの 2 倍の大きさを確認します。

すべてのクライアントに推奨される RAM の要件は 1GB です。

次の表に、EPM System のクライアント・コンポーネントに必要なディスク・スペースと RAM を示します。

製品ファミリ	コンポーネント	ディスク・スペース(最小) <sup>1</sup>	注意
Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System Installer, Fusion Edition	EPM System Installer とすべての EPM System 製品のアセンブリ	16GB	インストール後に、インストール・ファイルとアセンブリを除去できます。
Foundation Services	共通クライアント・コンポーネント	400MB	
	Smart View for Office	100MB	
	Performance Management Architect	20 MB	ファイル・ジェネレータおよびバッチ・クライアントのコンポーネントのみ
Essbase	Essbase ランタイム・クライアント	150MB	
	Essbase 管理サービス・コンソール	300MB	
	Essbase Integration Services コンソール	90MB	
	Essbase Studio コンソール	80MB	
Reporting and Analysis	Oracle Hyperion Financial Reporting Studio, Fusion Edition	400MB	
	Oracle Hyperion(R) Interactive Reporting Studio	700MB	
	Oracle Hyperion(R) Dashboard Development Services	190MB	
	Oracle Hyperion(R) SQR(R) Production Reporting Studio	90MB	
	Oracle Hyperion(R) SQR(R) Production Reporting Activator	30MB	
	Production Reporting リモート	10MB	
	Production Reporting ビューア	40MB	
	Oracle Hyperion(R) Web Analysis Studio	40MB	
Financial Performance Management アプリケーション	オフライン・プランニング	280MB	

製品ファミリ	コンポーネント	ディスク・スペース(最小) <sup>1</sup>	注意
	Financial Management クライアント	100MB	
	Strategic Finance クライアント	700MB	
	Oracle Hyperion Strategic Finance Reader	700MB	
Oracle データ管理	FDM Workbench	200 MB	
	Data Relationship Management クライアント	40MB	

<sup>1</sup> ディスク・スペースには、Foundation Services と併せてマシンにインストールされる共通クライアント・コンポーネントは含まれません。

## サーバーのディスク・スペースおよび RAM

ディスク・スペースおよび RAM の要件は概算で、マシンによる追加の要件は含まれません。インストール・プログラムが、製品インストールの選択内容に基づいて、必要なディスク・スペースの 2 倍の大きさを確認します。ディスク・スペースの推定量には、ドキュメント・ヘルプ・ファイル(ある場合)と EPM System のコンポーネントが含まれます。

コンポーネント	ディスク・スペース (最小)	RAM (最小)
Shared Services	800MB <sup>1</sup>	1.5GB
EPM Workspace	2GB サービス用: 400MB ファイルのインポート用: 2GB	1GB サービス用: 1GB
Performance Management Architect	125MB	次元サーバー用に 1GB Web 層とデータ・シンクロナイザ にそれぞれ 512MB
Calculation Manager	45MB	256MB
Essbase サーバー	2GB	1GB
アプリケーション・プログラミング・インタフェース	40MB	256MB
Administration Services	1GB <sup>2</sup>	32MB に管理サーバーの同時ユーザー数を乗算する たとえば、32MB * 10 ユーザー = 320MB
Essbase Integration Server	340MB	256MB
Provider Services	680MB	340MB
Essbase Studio サーバー	120MB	256MB

コンポーネント	ディスク・スペース (最小)	RAM (最小)
Financial Reporting	400MB	1GB
Interactive Reporting	1GB	1GB
Production Reporting	400MB	256MB
Web Analysis	2GB	1GB
Financial Management サーバー	64GB (10GB 使用可能)	4GB
Financial Management のデータベース・サーバー	24GB	4GB
Planning	8GB (10GB 使用可能)	2GB
Performance Scorecard	4GB 推奨	1GB <sup>3</sup>
Strategic Finance サーバー	700MB <sup>4</sup>	2GB
Profitability and Cost Management	8GB	2GB
Data Integration Management	Informatica PowerCenter 8.1.1 のインストール・ドキュメントを参照してください。	Informatica PowerCenter 8.1.1 のインストール・ドキュメントを参照してください。
FDM データベース・サーバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>FDM アプリケーションのサイズに依存</li> <li>プロセス展開のための複数の HDD</li> </ul>	同時ユーザー数 75 につき 1 GB (2 GB 以上)
FDM のフォルダ構造	FDM アプリケーションのサイズに依存	
FDM アプリケーション・サーバー	400MB	2 GB (同時ユーザー数 75 につき)
FDM Web サーバー	400MB	2GB
ERP Integrator	300MB	2GB
Data Relationship Management - データベース・サーバー	4GB	2GB
Data Relationship Management - アプリケーション・サーバー	200 MB	2GB

<sup>1</sup> この数値は、Shared Services の基本インストール用です。プロビジョニング用の埋込み Shared Services ネイティブ・ディレクトリ(OpenLDAP)の使用状況(OpenLDAP のバックアップ頻度による)およびライフサイクル管理の使用状況によって、さらに多くのディスク・スペースが必要になります。ライフサイクル管理機能を使用する場合は、アプリケーション・データが Shared Services ファイル・システムに保管されるため、ディスク・スペースをかなり増やすことをお勧めします。

<sup>2</sup> データのロードやアウトラインの編集集中に管理サーバーにコピーされるデータ・ファイルやアウトライン・ファイルのためのディスク・スペースが十分あることを確認してください。

<sup>3</sup> 1GB には、Performance Scorecard と Alerter サーバーが含まれます。

<sup>4</sup> エンティティとそのバックアップ・アーカイブや管理ファイルと取引ファイル、連結レポートなどのユーザー・バックグラウンド・タスク・ログのための十分なストレージが必要です。

**注：** データ・ストレージとバイナリのインストールのために、Essbase では、NTFS、HPFS、JFS、VxFS、UFS などのローカルのファイル・システム・インタフェースでマウントされる任意のディスク配列デバイスを使用できます。NFS または CIFS を使用してマウントされるディスク配列はサポートされません。

## EPM System ソフトウェアの依存関係

この項では、EPM System コンポーネントに必要な EPM System ソフトウェアについて説明します。

コンポーネント	必要なソフトウェア
Shared Services	EPM Workspace (ドリル・スルー機能に必要な Web サーバー構成)
Essbase	<ul style="list-style-type: none"> <li>Shared Services (Essbase をネイティブ・セキュリティ・モードで使用していない場合)</li> <li>Administration Services</li> </ul>
Administration Services	<ul style="list-style-type: none"> <li>Shared Services</li> <li>Essbase</li> <li>EPM Workspace (ドリル・スルー機能に必要な Web サーバー構成)</li> </ul>
Provider Services	<ul style="list-style-type: none"> <li>Administration Services</li> <li>EPM Workspace (ドリル・スルー機能に必要な Web サーバー構成)</li> </ul>
Essbase Studio	<ul style="list-style-type: none"> <li>Shared Services</li> <li>Essbase</li> <li>Administration Services</li> </ul>
Smart View	Provider Services
Smart Search Command Line Utility	<ul style="list-style-type: none"> <li>Shared Services</li> <li>Essbase</li> </ul>
Reporting and Analysis のすべてのコンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> <li>Shared Services</li> <li>EPM Workspace</li> </ul>
Planning (クラシック・アプリケーション管理を使用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Shared Services</li> <li>EPM Workspace</li> <li>Essbase (Essbase サーバーと Administration Services のコンポーネント)</li> <li>Business Rules または Calculation Manager</li> </ul>
Planning (Performance Management Architect のアプリケーション管理を使用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Shared Services</li> <li>EPM Workspace</li> <li>Essbase (Essbase サーバーと Administration Services のコンポーネント)</li> <li>Performance Management Architect</li> <li>Calculation Manager (Oracle Hyperion Capital Asset Planning, Fusion Edition および Oracle Hyperion Workforce Planning, Fusion Edition に必要)</li> </ul>

コンポーネント	必要なソフトウェア
Financial Management	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Shared Services</li> <li>● EPM Workspace</li> <li>● Performance Management Architect (クラシック・アプリケーション管理を使用している場合はオプション)</li> <li>● Calculation Manager(オプション)</li> </ul>
Performance Scorecard	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Shared Services</li> <li>● EPM Workspace</li> <li>● Essbase (Essbase サーバーと Administration Services のコンポーネント)-キューブ生成によるカスタム・レポートの作成に必要</li> </ul>
Strategic Finance	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Shared Services</li> </ul>
Profitability and Cost Management	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Shared Services</li> <li>● EPM Workspace</li> <li>● Performance Management Architect</li> </ul>
Data Relationship Management アプリケーション・サーバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Shared Services - 外部認証用のみ</li> </ul>
FDM	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Shared Services - 外部認証用のみ</li> </ul>
ERP Integrator	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Shared Services</li> <li>● EPM Workspace</li> <li>● Oracle Data Integrator (ODI)<sup>1</sup></li> </ul>

<sup>1</sup>ODI 10.1.3.6 では Windows 2008 をサポートしていないため、サポートされているオペレーティング・システムの別のマシンに配置する必要があります。

**注：** Provider Services は、Essbase、Administration Services、および Shared Services と統合できますが、必須ではありません。

**注：** 特定の EPM System 製品の現在のリリースと互換性のあるこれらの必須製品のリリースの詳細は、[第 4 章「リリースの互換性」](#)を参照してください。

## ランタイム・クライアント

一部の EPM System クライアントには、他の EPM System またはサードパーティ製品のランタイム・クライアントが必要です。EPM System のランタイム・クライアントとサーバーのバージョンが同じである必要があります。

EPM System 製品のインターオペラビリティの詳細は、[第 4 章「リリースの互換性」](#)を参照してください。

次の表に、EPM System クライアント・コンポーネントでサポートされるランタイム・クライアントを示します。

ランタイム・クライアント	対象
<ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase – Essbase ランタイム・クライアントは、自動的にインストールされます。</li> <li>● Microsoft SQL Server 2000 SP3a Analysis Services</li> <li>● Microsoft SQL Server 2005 SP1 Analysis Services</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Financial Reporting</li> <li>● Interactive Reporting</li> <li>● Production Reporting</li> <li>● Web Analysis</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● Financial Management - Financial Management ADM ドライバのバージョンと、Financial Reporting および Web Analysis で使用される Financial Management のバージョンが同じであることが必要です。</li> <li>● Planning - Planning ADM ドライバは、すべての Financial Reporting サーバー・マシンにインストールする必要があります。これは、EPM System Installer のコンポーネントです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Financial Reporting</li> <li>● Web Analysis</li> </ul>
Essbase – Essbase ランタイム・クライアントは、自動的にインストールされます。	Planning



# 3

## インストールのプランニング・チェックリスト

### この章の内容

インストールのプランニング .....	25
製品に固有のインストール・プランニング .....	32

## インストールのプランニング

次の表は、EPM System 製品のインストールを準備する際に使用するチェックリストです。少なくともインストールの 1 週間前に、担当コンサルタントとともにチェックリストを確認することをお薦めします。インストールの前にチェックリストを完了しておくことで、インストールを円滑かつ迅速に進めることができます。

表 3 インストール前の準備用チェックリスト

タスク	コメント	完了したら確認
作業領域の準備		
インストールを補助するコンサルタントの作業領域を確保します。	<ul style="list-style-type: none"><li>インターネット・アクセス - ファイアウォール外での直接接続</li><li>作業領域とネットワーク・アクセスのあるコンピュータ (EPM System 製品をインストールするサーバーがある場所が理想)</li><li>電話</li></ul>	
Oracle(R) E-Delivery ( <a href="http://edelivery.oracle.com/">http://edelivery.oracle.com/</a> ) サイトにアクセスできることを確認します。		
サードパーティ製品のライセンスの取得		
必要なサードパーティのライセンス・キーを取得します。	<p>一部のサードパーティ製品では、ライセンス・キーまたはライセンス・ファイルが必要です。ライセンス・キーを要求して受け取るまでに数日を要することがあります。</p> <p>Web アプリケーション・サーバーの場合は、組織に最適なライセンスの種類を考慮してください。たとえば、最高レベルの機能のライセンスではなく、低いレベルの機能のライセンスでも十分に組織のニーズを満たす場合もあります。</p>	

タスク	コメント	完了したら確認
ソフトウェアの準備		
EPM System Installer と必要な製品のインストール・アセンブリを、購入した製品のメディア・パックからダウンロードします。	<p>Oracle(R) E-Delivery (<a href="http://edelivery.oracle.com/">http://edelivery.oracle.com/</a>) サイトからダウンロードします。</p> <p>Oracle(R) E-Delivery のメディア・パックの Readme を参照して、必要な製品と製品で使用するオプションを確認します。</p> <p>ヒント： ファイルを共有ドライブにダウンロードすることをお勧めします。</p> <p>ファイルを解凍して整理する方法は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』のインストール・ファイルの準備に関する項を参照してください。</p>	
製品が EPM System 製品の互換性の要件を満たしていることを確認します。	第 4 章「リリースの互換性」を参照してください。	
EPM System 製品に必要な、すべてのサードパーティ製コンポーネントをインストールします。	<p>Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックス(<a href="http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html">http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html</a>)を参照してください。</p> <p>サードパーティ製ソフトウェアの使用に必要なライセンスをすべて取得したことを確認します。</p>	
サードパーティ製品のすべてのバージョンがシステム要件を満たしていることを検証します。	Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックス( <a href="http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html">http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html</a> )を参照してください。	
必要なドキュメントの収集		
購入した製品の EPM System インストール・ドキュメントと製品ドキュメントをダウンロードします。	<p>このドキュメントの他に、Oracle(R) E-Delivery (<a href="http://edelivery.oracle.com/">http://edelivery.oracle.com/</a>) サイトまたは Oracle(R) Technology Network の Oracle Documentation Library (<a href="http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html">http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html</a>) から、次のファイルをダウンロードします：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド</li> <li>● Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド</li> <li>● Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System SSL 構成ガイド(SSL を使用する場合)</li> <li>● Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成トラブルシューティング・ガイド</li> <li>● 配置に関して必要な、その他のインストール・ドキュメントおよび配置ドキュメント。(第 1 章「インストール・ドキュメント・ロードマップ」を参照。)</li> <li>● インストールする製品のドキュメント</li> </ul>	
ハードウェアの準備		

タスク	コメント	完了したら確認
配置アーキテクチャをプランニングします。	<p>たとえば、EPM System 製品を構成する前に、クラスタリングされた環境に配置するかどうかを把握しておく必要があります。参照:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● EPM System 製品のアーキテクチャの詳細は、第 2 章「EPM System 製品の理解」</li> <li>● プラットフォーム・サポートの詳細は、第 2 章「EPM System 製品の理解」</li> <li>● システム要件の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックス(<a href="http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html">http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html</a>)を参照してください</li> <li>● クラスタリングされた環境への配置の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System 高可用性ガイド』</li> </ul>	
必要とするハードウェアが配置アーキテクチャで使用でき、またコンピュータがシステム要件を満たしていることを確認します。	配置アーキテクチャのプランニングの詳細は、第 2 章「EPM System 製品の理解」を参照してください。システム要件の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックス( <a href="http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html">http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html</a> )を参照してください。	
EPM System をインストールするために各サーバーの準備をします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 必要に応じて、サーバーのソフトウェアを更新します。たとえば、必要なサービス・パック、ホットフィックスなどがインストールされていることを確認します。</li> <li>● 不要なサービスを使用不可にします。</li> </ul>	
ロード・バランシングまたはフェイルオーバー用にクラスタリングする場合は、ロード・バランサ(ハードウェア、ソフトウェア)またはフェイルオーバーのメカニズムが準備されていることを確認します。	ロード・バランサまたはフェイルオーバーのメカニズムがテスト済で準備できていることを、インストール前に確認します。詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System 高可用性ガイド』を参照してください。	
遠隔地のネットワーク帯域や待ち時間を確認し、最低要件が満たされていることを確認します。		
サーバーの時間を同期します。	サーバーの時間が同期していない場合、EPM System アプリケーション・サーバー間で認証エラーによるユーザー・アクセスの問題が発生することがあります。	
バックアップ機能を設定します。	インストール後は、すべてのサーバーとデータベースの完全バックアップの実行をお勧めします。最初のバックアップ後に、そのサーバーとデータベースを日次バックアップ手順に含めます。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください	

タスク	コメント	完了したら確認
ファイアウォールの問題の可能性を解決します。	<p>たとえば、ネットワーク・ファイアウォールの外側にあるクライアント・コンピュータ上で Essbase Integration Services コンソールが使用されており、このコンソールがネットワーク・ファイアウォール内の Integration Server および Essbase サーバーにアクセスする必要がある場合があります。このような場合は、Essbase サーバーと通信するためにクライアント・システムと Integration Server の両方で使用できる名前で、Essbase サーバーにログオンする必要があります。</p> <p>Essbase サーバーを実行しているコンピュータの外部 IP アドレスを使用してログオンを試行すると問題が発生します。Integration Server は、外部 IP アドレスを使用して、Essbase サーバーを実行しているコンピュータと通信できません。これは、Essbase サーバーと Integration Server の両方がファイアウォールの内部にあるためです。管理者は、ファイアウォールの両側から使用できる Essbase サーバー・コンピュータの別名を定義して、この問題を解決できます。</p>	
<b>データベースの準備</b>		
必要に応じて、データベース・クライアントをインストールし、リレーショナル・ストレージのリポジトリに必要な EPM System 製品のデータベースを準備します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サポートされているバージョンのデータベース・ソフトウェアを必ずインストールします。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックス(<a href="http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html">http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html</a>)を参照してください。</li> <li>● データベース・クライアントがサーバーからデータベースにアクセスできるよう設定します。</li> <li>● データベースにアクセスするユーザー・アカウントを設定します。</li> <li>● Oracle Database を使用している場合は、データベース・クライアント全体をインストールし、TNSPing コマンドを使用してデータベース・クライアントをテストします。</li> </ul> <p>データベースがインストールされたら、完全バックアップを行います。</p> <p>データベースの準備の詳細は、<a href="#">45 ページの「データベースの準備」</a>を参照してください。</p>	
<b>セキュリティ・インフラストラクチャの準備</b>		
Oracle Hyperion(R) Shared Services Console で、外部セキュリティ・ユーザー・ディレクトリを構成するために必要な情報を収集します。	<p>『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』のユーザー・ディレクトリの構成に関する説明を参照してください。</p> <p><b>アップグレードについての注意</b></p> <p>アップグレード中の組織ユニット(OU)間でのユーザーおよびグループの移動をサポートするには、一意の ID 属性を使用してユーザーおよびグループを特定するように Shared Services のユーザー・ディレクトリを構成する必要があります。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』のユーザー・ディレクトリの構成の章を参照してください。</p>	

タスク	コメント	完了したら確認
ユーザー・アカウントの準備	<p>Windows:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Windows サーバーごとに、ローカル管理者権限のあるユーザー・アカウントを準備します。すべての EPM System 製品で、同じユーザーが管理者としてインストールおよび構成を行います。</li> <li>● 製品で要求される場合は、ローカル・ポリシーを割り当てます。Windows の場合、通常、ユーザー ID には「OS の一部としての動作」、「走査チェックのバイパス」、「サービスとしてのログオン」および「バッチ・ジョブとしてのログオン」が必要です。</li> </ul> <p>UNIX</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● UNIX システムの場合は、EPM System 製品をインストール、構成および実行するためのログインを作成します。EPM System 製品のインストールで使用するアカウントには、\$HYPERION_HOME での読取り権限、書込み権限および実行権限が必要です。</li> </ul> <p>EPM System 製品のインストール、構成、実行には、root ユーザーを使用しないことをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● UNIX サーバーごとに、(root でない)ユーザー・アカウントを準備します。すべての EPM System 製品で、同じユーザーがインストールおよび構成を行います。</li> <li>● Oracle Application Server を使用している場合は、Oracle Application Server をインストールしたユーザーと同じユーザーが EPM System 製品をインストールおよび構成する必要があります。</li> <li>● 他の Oracle 製品がインストールされている場合、EPM System 製品をインストールするユーザーは他の Oracle 製品をインストールしたユーザーと同じグループに属している必要があります。たとえば、両方のユーザーが oinstall に属している必要があります。EPM System 製品をアップグレードする場合は、前のリリースのコンポーネントをインストールするために複数のユーザーを使用した場合でもこの要件に従ってください。</li> </ul>	
ドメイン・アカウントを作成します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品に DCOM アカウントが必要な場合(たとえば、hypdcom) - ローカル管理者権限のあるドメイン・ユーザー・アカウントまたはシステム・アカウント。</li> <li>● Hyperion 管理者(たとえば、hypadmin) - ドメイン・ユーザー・アカウント</li> </ul>	

タスク	コメント	完了したら確認
ユーザー・ディレクトリへのアクセス権を持つ外部認証用アカウントを取得します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ユーザー・ディレクトリの参照権限を持つログイン(サービス・アカウント可)を作成します。</li> <li>● サービス・アカウント名に特殊文字が含まれていないことを確認します。</li> <li>● サービス・アカウントの識別名(DN)が、ユーザー・ディレクトリにアクセスできることを確認します。</li> <li>● ユーザー・ディレクトリのポートを確認します。</li> <li>● MSAD にアクセスできる Primary Domain Controller の名前を確認します(必要な場合)。</li> <li>● サーバーがユーザー・ディレクトリと通信できることを確認します。</li> </ul> <p>『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。</p>	
セキュア通信を使用している場合は、すべてのコンポーネントでSSL 証明書が使用できることを確認してください。	<p>『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System SSL 構成ガイド』を参照してください。</p> <p>Oracle では、ローカル・ネットワークがファイアウォールなどの他の方法で保護されていない場合や、パブリック・ユーザーが Web サーバーにアクセスできる場合は、稼働環境でセキュア・ソケット対応サーバーを使用することをお勧めします。</p>	
必要に応じてファイアウォールのポートを開き、動的ポートを調整します。	<p><a href="#">第 6 章「ポート」</a>を参照してください。</p>	
組込み Shared Services ネイティブ・ディレクトリ(OpenLDAP)を使用している場合は、プロビジョニングをユーザー別に行うか、またはグループ別に行うかを検討します。グループ別にプロビジョニングする場合は、ネイティブ・ディレクトリ・グループを使用するか、または外部認証プロバイダ・グループを使用するかを決定します。	<p>『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。</p>	
Web アプリケーション・サーバーおよび Web サーバーの設定		

タスク	コメント	完了したら確認
EPM System 製品の配置で Web アプリケーション・サーバーを使用できることを確認します。配置するアプリケーション・サーバーおよび製品は、同じコンピュータにインストールされている必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サポートされているバージョンの Web アプリケーション・サーバーを必ずインストールします。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックス(<a href="http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html">http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html</a>)を参照してください。</li> <li>● アプリケーション・サーバーを必要とする製品を特定するには、15 ページの「アーキテクチャ」を参照し、サポートされているアプリケーション・サーバーのリストを確認するには、<a href="http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html">http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html</a>を参照してください。</li> <li>● 製品のデフォルトのインストールでは、Embedded Java コンテナがインストールされます。</li> <li>● 必要なサードパーティのライセンスをすべて取得したことを確認します。</li> <li>● Web アプリケーション・サーバーごとの特別な考慮事項については、56 ページの「Web アプリケーション・サーバーの準備」を参照してください。</li> <li>● UNIX の場合は、アプリケーション・サーバーのインストール・ディレクトリへのルート・アクセス権があることを確認します。(WebSphere では、ルート・プロファイルがなくても配置できるようにセキュリティを設定できます。詳細は、WebSphere のドキュメントを参照してください。)</li> </ul>	
Web サーバーが必要な EPM System 製品とあわせて使用する Web サーバーをインストールします。	<p>Web サーバーが必要な製品を特定するには、15 ページの「アーキテクチャ」を参照してください。サポートされている Web サーバーのリストを確認するには、<a href="http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html">http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html</a>を参照してください。また、Web サーバーの設定の詳細は、59 ページの「Web サーバーの準備」を参照してください。</p> <p>デフォルトのインストールでは、Embedded Java コンテナ用の Web サーバーがインストールされます。</p>	
ソフトウェアのロード・バランシングを使用している場合は、Web サーバー上で、Web アプリケーション・サーバーにロード・バランサ・プラグインを用意します。	ロード・バランサのドキュメントを参照してください。	
<b>ポート競合の解消</b>		
ポートの競合を特定して解決します。	EPM System 製品のデフォルトのポートのリストを第 6 章「ポート」で確認します。	
<b>製品構成の準備</b>		
インストール後に製品を構成するために必要な情報を収集します。	『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』の EPM System 製品の構成に関する説明を参照してください。	



タスク	コメント	完了したら確認
ライセンス契約を参照して、購入した製品と使用するライセンスを確認します。	構成中、ライセンス契約に基づいて、機能をアクティブ化または非アクティブ化します。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』のライセンス準拠の章を参照してください。	

## 製品に固有のインストール・プランニング

次の表に、特定の EPM System 製品に関して要求される追加のプランニングを示します。

表 4 インストール前の追加のプランニング・チェックリスト

タスク	コメント	完了したら確認
Production Reporting サーバーの準備	<p>Sun Solaris 以外のすべてのプラットフォームでは、Production Reporting サーバーの実行可能ファイルを再リンクするためにコンパイラが必要です。AIX platform の場合は、C++コンパイラが必要です。インストール済の C++コンパイラが必要な場合は、必要な C++のコンポーネントを次の場所からダウンロードできます。</p> <p>AIX の場合は、次に進みます:</p> <p><a href="http://www-1.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg24001174">http://www-1.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg24001174</a></p> <p>Production Reporting Server のリンク・スクリプトを変更する必要はありません。</p>	
AIX 上の実行時環境を準備する。	<p>Interactive Reporting、Financial Reporting、Web Analysis および場合によっては Essbase サーバーでは、AIX 5L で更新された C++実行時環境が必要です。</p> <p>更新を入手するには:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● IBM テクニカル・サポートの Web サイト(<a href="https://techsupport.services.ibm.com/">https://techsupport.services.ibm.com/</a>)にアクセスします。</li> <li>● PTF 番号(U489780)またはファイルセット(xlC.aix50.rte.6.0.0.7)を検索し、そのファイルをダウンロードします。</li> </ul>	



# 4

## リリースの互換性

### この章の内容

この章の表の読み方 .....	33
Foundation Services のリリースの互換性 .....	33
Essbase のリリースの互換性 .....	36
Reporting and Analysis のリリースの互換性 .....	38
Financial Performance Management アプリケーションのリリースの互換性 .....	40
データ管理のリリースの互換性 .....	42

### この章の表の読み方

この章の表から正確な情報を得るには、各列を下に読み進んで、列見出しに記載されている製品名と互換性のある EPM System 製品のバージョンを識別します。

たとえば、Planning 11.1.1.4 は、Essbase バージョン 11.1.1.x のみと互換性があります。

**注：** Foundation Services の互換性の表にある33 ページの「[Foundation Services の互換性の表](#)」のリリースの互換性の2つの表のフォーマットは、この章の他の表と異なります。

## Foundation Services のリリースの互換性

### Foundation Services の互換性の表

次の表を使用して、Foundation Services コンポーネントと他の製品コンポーネントとの互換性を確認します：

- 34 ページの「[Shared Services、EPM Workspace および Performance Management Architect の互換性](#)」
- 35 ページの「[Smart View と Provider Services の互換性](#)」
- 35 ページの「[Smart View と独立プロバイダの互換性](#)」

## Shared Services、EPM Workspace および Performance Management Architect の互換性

次の表に、Foundation Services コンポーネントと他の製品コンポーネントとのリリースの互換性を示します。

**表 5** Shared Services、EPM Workspace および Performance Management Architect リリースの互換性

	<b>Shared Services 11.1.1.4<sup>1</sup></b>	<b>EPM Workspace 11.1.1.4<sup>2</sup></b>	<b>Performance Management Architect 11.1.1.4</b>	<b>Calculation Manager 11.1.1.4</b>
<b>Essbase</b>				
互換性のある Essbase のバージョン	11.1.1.x	NA	11.1.1..4	11.1.1.x
互換性のある Administration Services のバージョン	11.1.1.x	NA	NA	11.1.1.x
互換性のある Provider Services のバージョン <sup>3</sup>	11.1.1.x	NA	NA	NA
互換性のある Integration Services のバージョン	NA	NA	NA	NA
互換性のある Essbase Studio のバージョン	11.1.1.x	NA	11.1.1.4	NA
<b>Reporting and Analysis</b>				
互換性のある Financial Reporting のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	NA	NA
互換性のある Production Reporting のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	NA	NA
互換性のある Interactive Reporting のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	NA	NA
互換性のある Web Analysis のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	NA	NA
<b>Financial Performance Management アプリケーション</b>				
互換性のある Planning のバージョン	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.4	11.1.1.4
互換性のある Financial Management のバージョン	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.4	11.1.1.4
互換性のある Performance Scorecard のバージョン	11.1.1.x	11.1.1.x	NA	NA
互換性のある Strategic Finance のバージョン	11.1.1.x	NA	NA	NA
互換性のある Profitability and Cost Management のバージョン	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.4	NA

	<b>Shared Services 11.1.1.4<sup>1</sup></b>	<b>EPM Workspace 11.1.1.4<sup>2</sup></b>	<b>Performance Management Architect 11.1.1.4</b>	<b>Calculation Manager 11.1.1.4</b>
<b>データ管理</b>				
互換性のある Data Relationship Management のバージョン	11.1.1.x	NA	フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブルを介し、すべてのバージョン	フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブルを介し、すべてのバージョン
互換性のある FDM のバージョン	11.1.1.x	NA	NA	NA
ERP Integrator	11.1.1.4	11.1.1.4	11.1.1.4	NA
互換性のある Data Integration Management のバージョン	11.1.1.x	NA	NA	NA

<sup>1</sup>一部の製品は Shared Services のライフサイクル管理機能をサポートしていません。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理ガイド』を参照してください。

<sup>2</sup>EPM Workspace 11.1.1.4 は、Oracle BI EE および Oracle BI Publisher バージョン 10.1.3.4.x と互換性があります。

<sup>3</sup>9.2.x リリースに対しては、Analytic Services Smart View プロバイダがサポートされます。

## Smart View と Provider Services の互換性

次の表に、Smart View および Provider Services のリリースの互換性を示します。

**表 6 Smart View と Provider Services および EPM System の製品の互換性**

<b>Provider Services のバージョン</b>	<b>Smart View クライアントのバージョン</b>	<b>サポートされている製品のバージョン</b>
Provider Services 11.1.1.4	11.1.1.4	Planning 11.1.1.x
		Essbase 11.1.1.x

**注：** スマート・スライスの操作と Planning のアドホック操作は、Provider Services のリリース 11.1.1.x を使用する場合のみサポートされます。

## Smart View と独立プロバイダの互換性

次の表に、Smart View と独立プロバイダのリリースの互換性を示します。

**表 7 Smart View と独立プロバイダの互換性**

<b>Smart View クライアントのバージョン</b>	<b>独立プロバイダのサポートされているバージョン</b>	<b>注意</b>
11.1.1.4	Financial Management 11.1.1.x	
11.1.1.4	Planning 11.1.1.x	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマート・スライスの操作と Planning のアドホック操作は、Provider Services のリリース 11.1.1.x を使用する場合のみサポートされます。 <a href="#">表 6</a> を参照してください。</li> </ul>

Smart View クライアントのバージョン	独立プロバイダのサポートされているバージョン	注意
11.1.1.4	Reporting and Analysis 11.1.1.x	

**注：** Smart View 11.1.1.4 は、Oracle Crystal Ball Enterprise Performance Management, Fusion Edition と互換性があります

Smart View 11.1.1.4 は、Oracle BI EE 10.1.3.4.x と互換性があります。

## Essbase のリリースの互換性

次の表に、Essbase コンポーネントと他の製品コンポーネントとのリリースの互換性を示します。

**注：** Smart View の互換性については、[35 ページの「Smart View と Provider Services の互換性」](#)を参照してください。

**表 8** Essbase のリリースの互換性

	Essbase 11.1.1.4 <sup>1</sup>	Administration Services 11.1.1.4	Integration Services 11.1.1.4	Provider Services 11.1.1.4	Essbase Studio 11.1.1.4 <sup>2</sup>
<b>Foundation Services</b>					
互換性のある Shared Services のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	NA	11.1.1.4	11.1.1.4
互換性のある EPM Workspace のバージョン	NA	NA	NA	NA	NA
互換性のある Performance Management Architect のバージョン	11.1.1.4	NA	NA	NA	11.1.1.4
Calculation Manager	11.1.1.x	11.1.1.x	NA	NA	11.1.1.4
<b>Essbase</b>					
互換性のある Essbase のバージョン	NA	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x
互換性のある Administration Services のバージョン	11.1.1.x	NA	NA	11.1.1.x	11.1.1.x
互換性のある Provider Services のバージョン <sup>3</sup>	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x	NA	11.1.1.x
互換性のある Integration Services のバージョン	11.1.1.x	NA	NA	NA	11.1.1.x

	<b>Essbase 11.1.1.4</b> 1	<b>Administration Services 11.1.1.4</b>	<b>Integration Services 11.1.1.4</b>	<b>Provider Services 11.1.1.4</b>	<b>Essbase Studio 11.1.1.4</b> 2
互換性のある Essbase Studio のバージョン	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x	NA
<b>Reporting and Analysis</b>					
互換性のある Financial Reporting のバージョン	11.1.1.4	NA	NA	NA	NA
互換性のある Production Reporting のバージョン	11.1.1.4	NA	NA	NA	NA
互換性のある Interactive Reporting のバージョン	11.1.1.4	NA	NA	NA	NA
互換性のある Web Analysis のバージョン	11.1.1.4	NA	NA	NA	11.1.1.4
<b>Financial Performance Management アプリケーション</b>					
互換性のある Planning のバージョン	11.1.1.x	11.1.1.x Planning および Administration Services は、Business Rules が正常に動作するために、同じリリース・レベルにする必要があります。	NA	NA	NA
互換性のある Financial Management のバージョン	11.1.1.x	NA	NA	NA	NA
互換性のある Performance Scorecard のバージョン	11.1.1.x	NA	NA	NA	NA
互換性のある Strategic Finance のバージョン	11.1.1.x	NA	NA	NA	NA
互換性のある Profitability and Cost Management のバージョン	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x	NA
<b>データ管理</b>					
互換性のある Data Relationship Management のバージョン	フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブルを介し、すべてのバージョン	NA	フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブルを介し、すべてのバージョン	NA	NA

	<b>Essbase 11.1.1.4</b> 1	<b>Administration Services 11.1.1.4</b>	<b>Integration Services 11.1.1.4</b>	<b>Provider Services 11.1.1.4</b>	<b>Essbase Studio 11.1.1.4</b> 2
互換性のある FDM のバージョン	11.1.1.x	NA	NA	NA	11.1.1.x
互換性のある ERP Integrator のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	NA	11.1.1.4	NA
互換性のある Data Integration Management のバージョン	11.1.1.x	NA	NA	NA	NA
<b>その他の製品</b>					
Essbase Analytics Link	11.1.1.4	NA	NA	NA	NA

<sup>1</sup>Essbase 11.1.1.4 では、Oracle BI EE リリース 10.1.3.4.1 をデータ・ソースとして使用することもできます。

<sup>2</sup>Essbase Studio 11.1.1.4 では、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition リリース 10.1.3.4.1 をデータ・ソースとして使用することもできます。

<sup>3</sup>9.2.x のリリースに対しては、Analytic Services Smart View プロバイダと分析高可用性サービスがサポートされます。

## Reporting and Analysis のリリースの互換性

次の表に、Reporting and Analysis コンポーネントと他の製品コンポーネントとのリリースの互換性を示します。

EPM Workspace の互換性については、[33 ページの「Foundation Services のリリースの互換性」](#)を参照してください。

**表 9 Reporting and Analysis のリリースの互換性**

	<b>Interactive Reporting 11.1.1.4</b> <sup>1</sup>	<b>Financial Reporting 11.1.1.4</b>	<b>Production Reporting 11.1.1.4</b>	<b>Web Analysis 11.1.1.4</b>
<b>Foundation Services</b>				
互換性のある Shared Services のバージョン <sup>2</sup>	11.1.1.4	11.1.1.4	11.1.1.4	11.1.1.4
互換性のある EPM Workspace のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	11.1.1.4	11.1.1.4
互換性のある Performance Management Architect のバージョン	NA	NA	NA	NA
Calculation Manager	NA	NA	NA	NA
<b>Essbase</b>				
互換性のある Essbase のバージョン	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x
互換性のある Administration Services のバージョン	NA	NA	NA	NA

	<b>Interactive Reporting 11.1.1.4<sup>1</sup></b>	<b>Financial Reporting 11.1.1.4</b>	<b>Production Reporting 11.1.1.4</b>	<b>Web Analysis 11.1.1.4</b>
互換性のある Provider Services のバージョン <sup>3</sup>	NA	11.1.1.x	NA	11.1.1.x
互換性のある Integration Services のバージョン	NA	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x
互換性のある Essbase Studio のバージョン	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x
<b>Financial Performance Management アプリケーション</b>				
互換性のある Planning のバージョン	NA	11.1.1.x	NA	11.1.1.x
互換性のある Financial Management のバージョン	NA	11.1.1.x	NA	11.1.1.x
互換性のある Performance Scorecard のバージョン	NA	NA	NA	NA
互換性のある Strategic Finance のバージョン	NA	NA	NA	NA
互換性のある Profitability and Cost Management のバージョン	NA	11.1.1.x	NA	11.1.1.x
<b>データ管理</b>				
互換性のある Data Relationship Management のバージョン	NA	NA	NA	NA
互換性のある FDM のバージョン	NA	NA	NA	NA
互換性のある ERP Integrator のバージョン	NA	11.1.1.4 注：ドリル・スルー機能の場合	NA	NA
互換性のある Data Integration Management のバージョン	NA	NA	NA	NA

<sup>1</sup>Interactive Reporting コンポーネント間のリリースの互換性は、表 10 に記載されています。

<sup>2</sup>スタンドアロン製品に Shared Services は必要ありません。

<sup>3</sup>9.2.x のリリースでは、分析高可用性サービスがサポートされます。

次の表に、Interactive Reporting 製品のコンポーネント間のリリースの互換性を示します。

**表 10** Interactive Reporting コンポーネントのリリースの互換性

	<b>Interactive Reporting 11.1.1.4</b>
Oracle Hyperion(R)インパクト・マネージャ・サービス - 変更の影響	11.1.1.x
インパクト・マネージャ・サービス - データ・モデルの更新	11.1.1.x
Oracle Hyperion(R)インパクト・マネージャ・サービス - JavaScript 更新キット	11.1.1.x

	Interactive Reporting 11.1.1.4
Dashboard Development Services - Dashboard Studio	11.1.1.x
Oracle Hyperion(R) Dashboard Development Services - ダッシュボード、テンプレートおよびコンポーネント	11.1.1.x

## Financial Performance Management アプリケーションのリリースの互換性

次の表に、Financial Performance Management アプリケーション・コンポーネントと他の製品コンポーネントとのリリースの互換性を示します。

**表 11** Financial Performance Management アプリケーションのリリースの互換性

	Planning 11.1.1.4 <sup>1</sup>	Financial Management 11.1.4	Performance Scorecard 11.1.4	Strategic Finance 11.1.4	Profitability and Cost Management 11.1.1.4
<b>Foundation Services</b>					
互換性のある Shared Services のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	11.1.1.4	11.1.1.4	11.1.1.4
互換性のある EPM Workspace のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	11.1.1.4	NA	11.1.1.4
互換性のある Performance Management Architect のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	NA	NA	11.1.1.4
Calculation Manager	11.1.1.4	11.1.1.x	NA	NA	NA
<b>Essbase</b>					
互換性のある Essbase のバージョン	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x
互換性のある Administration Services のバージョン	11.1.1.x Planning および Administration Services は、Oracle Hyperion(R) Business Rules が正常に動作するために、同じリリース・レベルにする必要があります。	11.1.1.x	NA	NA	11.1.1.x
互換性のある Provider Services のバージョン	NA	NA	NA	NA	11.1.1.x
互換性のある Integration Services のバージョン	NA	NA	NA	NA	11.1.1.x



	<b>Planning 11.1.1.4<sup>1</sup></b>	<b>Financial Management 11.1.1.4</b>	<b>Performance Scorecard 11.1.1.4</b>	<b>Strategic Finance 11.1.1.4</b>	<b>Profitability and Cost Management 11.1.1.4</b>
互換性のある Essbase Studio のバージョン	NA	NA	NA	NA	NA
<b>Reporting and Analysis</b>					
互換性のある Financial Reporting のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	NA	NA	11.1.1.4
互換性のある Oracle Hyperion(R) SQR(R) Production Reporting のバージョン	NA	NA	NA	NA	NA
互換性のある Interactive Reporting のバージョン	NA	NA	IR スマートカットを介して	NA	NA
互換性のある Web Analysis のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	拡張分析を介して	NA	11.1.1.4
<b>Financial Performance Management アプリケーション</b>					
互換性のある Planning のバージョン	NA	11.1.1.x	NA	Essbase とともに配置されたバージョン	NA
互換性のある Financial Management のバージョン	11.1.1.x	NA	11.1.1.x	11.1.1.x	NA
互換性のある Performance Scorecard のバージョン	NA	11.1.1.x	NA	NA	NA
互換性のある Strategic Finance のバージョン	Essbase とともに配置されたバージョン	11.1.1.x	NA	NA	NA
互換性のある Profitability and Cost Management のバージョン	NA	NA	NA	NA	NA
<b>データ管理</b>					
互換性のある Data Relationship Management のバージョン	フラット・ファイルを紹介、すべてのバージョン	フラット・ファイルを紹介、すべてのバージョン	NA	NA	NA
互換性のある FDM のバージョン	Essbase とともに配置されたバージョン	11.1.1.x	NA	11.1.1.x	NA

	Planning 11.1.1.4 <sup>1</sup>	Financial Management 11.1.1.4	Performance Scorecard 11.1.1.4	Strategic Finance 11.1.1.4	Profitability and Cost Management 11.1.1.4
互換性のある ERP Integrator のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	NA	NA	NA
互換性のある Data Integration Management のバージョン	11.1.1.x	11.1.1.x	11.1.1.x	NA	NA
その他の製品					
Essbase Analytics Link	NA	11.1.1.4	NA	NA	NA

<sup>1</sup>Oracle Hyperion Workforce Planning, Fusion Edition および Capital Expense Planning を含む

## データ管理のリリースの互換性

次の表に、データ管理コンポーネントと他の製品コンポーネントとのリリースの互換性を示します。

表 12 データ管理のリリースの互換性

	Data Relationship Management 11.1.1.4	FDM 11.1.1.4 <sup>1</sup>	ERP Integrator 11.1.1.4	Oracle Hyperion(R) Data Integration Management 11.1.1.4
<b>Foundation Services</b>				
互換性のある Shared Services のバージョン	11.1.1.4	11.1.1.4	11.1.1.4	NA
互換性のある EPM Workspace のバージョン	NA	NA	11.1.1.4	NA
互換性のある Oracle Hyperion Smart View for Office, Fusion Edition のバージョン	NA	11.1.1.4	11.1.1.4	NA
互換性のある Performance Management Architect のバージョン	フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブルを介し、すべてのバージョン	NA	11.1.1.4	NA
Calculation Manager	フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブルを介し、すべてのバージョン	NA	NA	NA
<b>Essbase</b>				
互換性のある Essbase のバージョン	フラット・ファイルを介し、すべてのバージョン	11.1.1.x	11.1.1.4	11.1.1.x

	<b>Data Relationship Management 11.1.1.4</b>	<b>FDM 11.1.1.4 1</b>	<b>ERP Integrator 11.1.1.4</b>	<b>Oracle Hyperion(R) Data Integration Management 11. 1.1.4</b>
互換性のある Administration Services のバージョン	フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブルを介し、すべてのバージョン	NA	11.1.1.4	NA
互換性のある Provider Services のバージョン	NA	NA	11.1.1.4	NA
互換性のある Integration Services のバージョン	フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブルを介し、すべてのバージョン	NA	NA	NA
互換性のある Essbase Studio のバージョン	NA	11.1.1.x	NA	NA
<b>Financial Performance Management アプリケーション</b>				
互換性のある Planning のバージョン	フラット・ファイルを介し、すべてのバージョン	Essbase とともに配置されたバージョン	11.1.1.4	11.1.1.x
互換性のある Financial Management のバージョン	フラット・ファイルを介し、すべてのバージョン	11.1.1.x	11.1.1.4	11.1.1.x
互換性のある Performance Scorecard のバージョン	NA	NA	NA	11.1.1.x
互換性のある Strategic Finance のバージョン	NA	11.1.1.x	NA	NA
互換性のある Profitability and Cost Management のバージョン	NA	NA	NA	NA
<b>その他の製品</b>				
互換性のある Oracle Data Integrator (ODI)のバージョン	NA	NA	10.1.3.6	NA

<sup>1</sup> ドリルバックを使用している場合、FDM のバージョンは製品のバージョンと一致する必要があります。



## この章の内容

データベースの準備 .....	45
Web アプリケーション・サーバーの準備 .....	56
Web サーバーの準備 .....	59
Web ブラウザの準備 .....	61

## データベースの準備

ほとんどの EPM System 製品は、インストールして構成する前に、サポートされている RDBMS(Oracle Database、Microsoft SQL の Server、または IBM DB2)を使用してデータベースを作成する必要があります。

簡単に配置するために、次の場合を除いてすべての製品に対して 1 つのデータベース・リポジトリを使用できます。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System コンフィグレータを使用して一度に複数の製品を構成する場合、選択したすべての製品に対して 1 つのデータベースが構成されます。

**注意** 各製品に異なるデータベースを使用するには、各製品について「データベースの構成」タスクを個別に実行します。場合によっては、製品に個別のデータベースを構成する方がよい場合があります。パフォーマンス、単一アプリケーションまたは製品に対するロールバック手順、および障害が起こったときの回復計画を考慮してください。

次の製品と製品コンポーネントには、一意のデータベースが必要です:

- Performance Management Architect インタフェース・データ・ソース。
- Financial Management の拡張分析および Strategic Finance の拡張分析。
- Planning。各 Planning アプリケーションには、固有のリポジトリが必要です。
- Performance Scorecard。
- FDM。Oracle Database インスタンスを FDM 専用に使

用します。FDM データベースの詳細は、『Oracle Hyperion Financial Data Quality Management DBA Guide』を参照してください。

- Data Relationship Management。『Oracle Hyperion Data Relationship Management Installation Guide』を参照してください。

**注：** EPM System 製品では、Oracle、SQL および DB2 用に JDBC(Java Database Connectivity)ドライバを使用する必要があります。Oracle は、Hyperion JDBC ドライバを無償で提供します。

## アップグレードについての注意

EPM System 製品の前のリリースからアップグレードしている場合、前のリリースと同じデータベースを使用します。

# Oracle Database の使用方法

## Oracle Database のインストール情報

- Oracle Database フル・クライアントを次のマシンにインストールします:
  - Performance Management Architect 次元サーバー
  - Financial Management アプリケーション・サーバー
  - Data Relationship Management サーバー
  - FDM
- データベースがリモート・コンピュータに置かれている場合は、Net Service Name (ネット・サービス名)を作成して、製品がリモート・データベースに接続できるようにします。
- 場所とパスを指定するときは、グローバル・データベース・サーバー名を使用します。localhost はサーバー名として使用しないでください。

## Oracle Database の作成の考慮事項

非 ASCII 文字セットとの最良の互換性を確保するために、データベースは UTF-8 (Unicode Transformation Format)エンコード方式(文字セット)を使用して作成する必要があります。多言語サポート(複数の文字セットのサポート)を必要とする場合は、UTF-8 を使用する必要があります。Oracle では、UTF-8 エンコード方式の次の文字セットをサポートしています:

- AL32UTF8 (ASCII プラットフォーム用 UTF-8 エンコード)
- UTF8 (Oracle 用下位互換エンコード)
- UTFE (EBCDIC プラットフォーム用 UTF-8 エンコード)

**注：** UTF-8 文字セットは、クライアントと Oracle Database の両方に適用する必要があります。

## Oracle Database の役割と権限

Oracle Database のユーザー ID には、次の役割と権限があります:

- CREATE SESSION

- CREATE VIEW
- RESOURCE

**注：** RESOURCE の役割はデフォルトで付与されます。たとえば、ALTER USER oracle\_schema\_user DEFAULT ROLE "RESOURCE"になります。

## 必須 Oracle Database アカウント(FDM のみ)

FDM が使用するデフォルトのテーブルスペースは、Users テーブルスペースです。ユーザーが使用済スペースのしきい値を超えないようにする方法またはクォータの適正值については、データベース管理者に確認してください。

FDM には、独自の Oracle Database のインスタンスを確保することをお勧めします。

データベースのインスタンスを作成する前に、『Oracle Hyperion Financial Data Quality Management DBA Guide』を確認することをお勧めします。

## Oracle Database のサイズのガイドライン

autoextend をオンにしてテーブルスペースを設定することをお勧めします。

次の表に、Oracle Database のサイズのガイドラインを示します。

製品	サイズのガイドライン
Shared Services	100MB から開始し、ライフサイクル管理による移行の数および監査レコードの数が増加するに従って増やします。
EPM Workspace	必要なスペースは、リポジトリに保管する予定のオブジェクトの合計サイズによって異なります。データ・ファイルまたはテーブルスペースを増やすことなく EPM Workspace リポジトリを拡張するスペースを確保できる 250MB 以上から開始することをお勧めします。EPM System Configurator コンフィグレータによる構成では、60MB の共有プールが使用されます。
Performance Management Architect	250MB 以上から開始することをお勧めします。
Administration Services	必要なスペースは、作成されるメタデータに依存します。32MB 以上から開始することをお勧めします。
Essbase Studio	必要なスペースは、作成されるメタデータに依存します。32MB 以上から開始することをお勧めします。
Planning および Calculation Manager	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 合計 5,000 以下のメンバーを持つアプリケーションでは 100MB</li> <li>● 合計 15,000 以下のメンバーを持つアプリケーションでは 200MB</li> </ul> <p><b>注：</b> アプリケーションのサイズにあわせて、システム・テーブル・データベースのサイズを調整できます。</p>

製品	サイズのガイドライン
Financial Management および Calculation Manager	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 合計 5,000 以下のメンバーを持つアプリケーションでは 100MB</li> <li>● 合計 15,000 以下のメンバーを持つアプリケーションでは 200MB</li> </ul> <p>注： アプリケーションのサイズにあわせて、システム・テーブル・データベースのサイズを調整できます。</p>
Performance Scorecard	500MB
Profitability and Cost Management	100MB
FDM	『Oracle Hyperion Financial Data Quality Management DBA Guide』を参照してください。

## Oracle Database 構成の考慮事項

### テーブルスペースの考慮事項

次の表に、Oracle Database のテーブルスペースのガイドラインを示します。

製品	テーブルスペースの考慮事項
全般 - すべての製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>● テーブルスペースの全体像を考慮し、EPM System 製品が作成するテーブルを分散するために、1 つ以上のテーブルスペースを割り当てます。</li> <li>● テーブルスペースは他のアプリケーションと共有できます。</li> <li>● インデックス専用のテーブルスペースを作成してパフォーマンスを向上します。これには、CREATE TABLESPACE システム権限が必要です。</li> <li>● テーブルスペースを作成する場合は、SEGMENT SPACE MANAGEMENT パラメータを AUTO に設定してください。このパラメータは、パフォーマンスの向上に必要です。</li> </ul>
Reporting and Analysis	テーブルスペースを Reporting and Analysis 専用にします。このユーザーのデフォルト・テーブルスペースおよび一時テーブルスペースとして使用するテーブルスペースを決定します。SYSTEM テーブルスペースは使用しないでください。
Financial Management	一時テーブルスペースを 1GB 以上に設定します。
FDM	『Oracle Hyperion Financial Data Quality Management DBA Guide』を参照してください。
Data Relationship Management	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 初期テーブルスペース・サイズを 1GB に設定します。</li> <li>● 500MB に拡張します。</li> <li>● 「自動拡張」を有効にします</li> </ul>

### その他のパラメータ

次の表に、Oracle Database のその他のパラメータを示します。



製品	その他のパラメータ
全般-すべての製品	nls_length_semantics パラメータを char に設定:  nls_length_semantics=char
Planning	Planning では、Oracle の CURSOR_SHARING をデフォルトの「EXACT」に設定する必要があります。Planning のキューブのリフレッシュでパフォーマンスの問題がある場合は、これが「EXACT」に設定されていることを確認します。
Financial Management	Oracle の OPEN_CURSORS を 5000 に設定します。
Performance Scorecard	Oracle の OPEN_CURSORS を 1500 以上に設定します。
FDM	『Oracle Hyperion Financial Data Quality Management DBA Guide』を参照してください。

## Oracle Database のオペレーティング・システムの構成

Reporting and Analysis に対して、必要な環境変数を設定します:

- (UNIX/Linux)
  - ORACLE\_HOME
  - PATH
  - (Solaris/Linux)LD\_LIBRARY\_PATH
  - (AIX)LIBPATH
  - (HP)SHLIB\_PATH

## Microsoft SQL Server データベースの使用方法

### Microsoft SQL Server のデータベース作成の考慮事項

データベースのセキュリティ・プロパティを設定する場合は、次の認証オプションを選択します(SQL Server と Windows):

### Microsoft SQL Server の役割と権限

データベース・ユーザーには、DB\_OWNER 権限と BULK\_INSERT を許可するデータベースの所有権を割り当てる必要があります。

**注：** FDM では、MSSQL サーバーで Windows サービスを実行する Windows アカウントに FDM の Data フォルダへの読取りアクセス権が必要です。

## Microsoft SQL Server のサイズのガイドライン

次の表に、Microsoft SQL Server のサイズのガイドラインを示します。

製品	サイズのガイドライン
Shared Services	100MB から開始し、ライフサイクル管理による移行の数および監査レコードの数が増加するに従って増やします。
EPM Workspace	必要なスペースは、リポジトリに保管する予定のオブジェクトの合計サイズに依存します。データ・ファイルまたはテーブルスペースを増やすことなく EPM Workspace リポジトリを拡張するスペースを確保できる 250MB 以上から開始することをお勧めします。EPM System コンフィグレータによる構成では、60MB の共有プールが使用されます。
Performance Management Architect	250MB 以上から開始することをお勧めします。
Administration Services	必要なスペースは、作成されるメタデータに依存します。32MB 以上から開始することをお勧めします。
Essbase Studio	必要なスペースは、作成されるメタデータに依存します。32MB 以上から開始することをお勧めします。
Planning および Calculation Manager	<ul style="list-style-type: none"><li>合計 5,000 以下のメンバーを持つアプリケーションでは 100MB</li><li>合計 15,000 以下のメンバーを持つアプリケーションでは 200MB</li></ul> <p>注： アプリケーションのサイズにあわせて、システム・テーブル・データベースのサイズを調整できます。</p>
Financial Management および Calculation Manager	<ul style="list-style-type: none"><li>合計 5,000 以下のメンバーを持つアプリケーションでは 100MB</li><li>合計 15,000 以下のメンバーを持つアプリケーションでは 200MB</li></ul> <p>注： アプリケーションのサイズにあわせて、システム・テーブル・データベースのサイズを調整できます。</p>
Performance Scorecard	500MB
Profitability and Cost Management	100MB
FDM	『Oracle Hyperion Financial Data Quality Management DBA Guide』を参照してください。

## Microsoft SQL Server のデータベース構成の考慮事項

次の表に、Microsoft SQL Server のテーブルスペースの考慮事項を示します。

製品	テーブルスペースの考慮事項
Data Relationship Management	<ul style="list-style-type: none"><li>初期ファイルサイズを 1GB に設定します。</li><li>「自動拡張」を有効にし、10%に設定します。</li></ul>

# IBM DB2 データベースの使用方法

## IBM DB2 のインストール情報

IBM DB2 のインストール中は、次のことを考慮します:

- IBM DB2 をインストールする場合は、OLAP スタート・キット・オプションを選択解除します。
- Performance Management Architect では、DB2 9 ランタイム・クライアントと DB2 .NET Data Provider をインストールする次元サーバーのマシン以外のコンピュータに DB2 データベースをインストールする必要があります。

**注：** DB2 9 ランタイム・クライアントが Performance Management Architect コンピュータにインストールされている場合、Global Assembly Cache にエントリが存在することを確認します。

- Financial Management に IBM DB2 データベースを使用する場合は、DB2 ランタイム・クライアントと DB2 .NET Data Provider が、Financial Management アプリケーション・サーバーと同じマシンにインストールされていることが必要です。
- Reporting and Analysis に対しては、サービスをインストールするコンピュータに IBM DB2 Client Application Enabler をインストールする必要があります。Core Service および Job Factory Service に対しては、IBM DB2 RDBMS を使用し、Reporting and Analysis サービスが別のマシンにある場合、Client Application Enabler を使用して Reporting and Analysis データベースへのクライアント接続を作成します。

## IBM DB2 データベースの作成の考慮事項

非 ASCII 文字セットとの最良の互換性を確保するために、IBM DB2 データベースは UTF-8 (Unicode Transformation Format)エンコード方式(文字セット)を使用して作成する必要があります。多言語サポート(複数の文字セットのサポート)を必要とする場合は、UTF-8 を使用する必要があります。

**注：** Performance Management Architect およびインタフェース・テーブル・データ・ソースのデータベースは UTF-8 文字セットを使用して設定する必要があります。

クライアント構成アシスタントを使用して、EPM System 製品がデータベースに接続するために使用できるデータベース別名を設定します。必ず「ODBC 用にこのデータベースをシステム・データ・ソースとして登録」を選択してください。

## IBM DB2 の役割と権限

データベース・ユーザーには、次の権限を割り当てる必要があります:

- CREATETAB

- BINDADD
- CONNECT

## IBM DB2 のサイズのガイドライン

次の表に、IBM DB2 のサイズのガイドラインを示します。

製品	サイズのガイドライン
Shared Services	100MB から開始し、ライフサイクル管理による移行の数および監査レコードの数が増加するに従って増やします。
EPM Workspace	必要なスペースは、リポジトリに保管する予定のオブジェクトの合計サイズに依存します。データ・ファイルまたはテーブルスペースを増やすことなく EPM Workspace リポジトリを拡張するスペースを確保できる 250MB 以上から開始することをお薦めします。EPM System コンフィグレータによる構成では、60MB の共有プールが使用されます。
Performance Management Architect	250MB 以上から開始することをお薦めします。
Administration Services	必要なスペースは、作成されるメタデータに依存します。32MB 以上から開始することをお薦めします。
Essbase Studio	必要なスペースは、作成されるメタデータに依存します。32MB 以上から開始することをお薦めします。
Planning および Calculation Manager	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 合計 5,000 以下のメンバーを持つアプリケーションでは 100MB</li> <li>● 合計 15,000 以下のメンバーを持つアプリケーションでは 200MB</li> </ul> <p>注： アプリケーションのサイズにあわせて、システム・テーブル・データベースのサイズを調整できます。</p>
Financial Management および Calculation Manager	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 合計 5,000 以下のメンバーを持つアプリケーションでは 100MB</li> <li>● 合計 15,000 以下のメンバーを持つアプリケーションでは 200MB</li> </ul> <p>注： アプリケーションのサイズにあわせて、システム・テーブル・データベースのサイズを調整できます。</p>
Performance Scorecard	500MB

## IBM DB2 データベース構成の考慮事項

次の表に、IBM DB2 データベース構成の考慮事項を示します。

製品	テーブルスペースの考慮事項
<p>全般 - すべての製品</p>	<p>テーブルスペースの最小要件:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● バッファ・プールとテーブルスペース(32KB のページ・サイズ)</li> <li>● システムの一時バッファ・プールとシステムの一部テーブルスペース(32KB のページ・サイズ)</li> </ul> <p>注: リポジトリを所有するデータベース・ユーザーのデフォルトのテーブルスペースをパーティションに分割しないでください。</p> <p>次のように設定を大きくします:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <code>bufferpool_name</code> バッファプールを(デフォルト)から 32000(最大の監査テーブルとインデックスのおよそのサイズ)</li> <li>● <code>IBMDEFAULTBP</code> バッファプールを 1000(デフォルト)から 100000</li> <li>● <code>tmp_bufferpool_name</code> バッファプールを 1000(デフォルト)から 8000(一時スペースのバッファプール)</li> <li>● <code>DBHEAP</code> を 1200(デフォルト)から 33000</li> <li>● <code>SORTHEAP</code> を 256(デフォルト)から 2000</li> <li>● <code>LOGBFSIZ</code> を 16(デフォルト)から 128</li> </ul>
<p>Shared Services および Essbase Studio</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次のようにヒープ・サイズを大きくします: <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <code>drda_heap_sz</code> パラメータ - 2048 以上</li> <li>○ <code>stmtheap</code>、<code>applheapsz</code>、<code>app_ctl_heap_sz</code> の各パラメータ - 8096</li> </ul> </li> <li>● <code>PAGESIZE</code> を 32K に増やす</li> <li>● <code>bufferpool32768</code> に増やす</li> </ul>
<p>Performance Management Architect</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次のようにヒープ・サイズを大きくします: <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <code>APP_CTL_HEAP_SZ</code> を 8096 にする</li> <li>○ <code>APPLHEAPSZ</code> を 8192 にする</li> </ul> </li> <li>● ユーザーにテーブルスペースとバッファプールを作成する権限があることを確認します。</li> <li>● ユーザーに一時テーブルスペースを使用する権限が付与されていることを確認します。</li> </ul>

製品	テーブルスペースの考慮事項
Planning	<p>Planning にアップグレードする前に、Planning テーブルをサポートするために、十分な大きさのテーブルスペース(少なくとも 32K のページ・サイズ)を使用してデータベースを構成する必要があります。</p> <p>次のサンプル SQL スクリプトによって、必要なバッファ・プールとテーブルスペースを作成します。必要に応じて名前およびディスクの場所を変更してください。デフォルトでは、テーブルスペースの名前は HSPSPACE8_1 で、C:\DB2DATA\HSPSPACE8_1 ディレクトリに作成されます。その他の設定もデフォルトになるため、管理者は環境に応じて設定を調整する必要があります。</p> <p>例:</p> <pre> CREATE BUFFERPOOL hspool8_1 SIZE 250 PAGESIZE 32 K;  CREATE REGULAR TABLESPACE hspspace8_1 PAGESIZE 32 K  MANAGED BY SYSTEM USING ('c:\db2data\hspspace8_1')  EXTENTSIZE 32 OVERHEAD 24.1 PREFETCHSIZE 8  TRANSFERRATE 0.9 BUFFERPOOL HSPPOOL8_1; </pre> <p>データベース管理者は、Planning リレーショナル・データベースにログオンするユーザーに、新しいテーブルスペースを使用する権利があることを確認します。</p>

## Performance Scorecard に固有の IBM DB2 データベース構成の要件

Performance Scorecard を構成する前に、次の手順を完了する必要があります。

► IBM DB2 サーバーを準備するには:

- 1 データベース・ログ・サイズの値を 6500 に設定します。
- 2 データベースに特有の情報で、次のスクリプトを変更します:

```

SET HPSDB=<
hpsdatabase
>

```

```

SET ADMIN=<
adminusername
>

```

```

SET ADMINPWD=<

```

```

adminpassword
>

SET TBSFILE=<
table space file location
>

SET TMPFILE=<
temp file location
>

DB2 CONNECT TO %HPSDB% USER %ADMIN% USING %ADMINPWD%

DB2 UPDATE DATABASE CONFIGURATION FOR %HPSDB% USING APPLHEAPSZ 512

DB2 CREATE BUFFERPOOL HPS_BP SIZE 250 PAGESIZE 32 K

DB2 TERMINATE

DB2STOP

DB2START

DB2 CONNECT TO %HPSDB% USER %ADMIN% USING %ADMINPWD%

DB2 CREATE REGULAR TABLESPACE HPS_SPACE1 PAGESIZE 32 K MANAGED BY SYSTEM
USING ('%TBSFILE%') EXTENTSIZE 32 OVERHEAD 24.1 PREFETCHSIZE 32 TRANSFERRATE 0.9
BUFFERPOOL HPS_BP

DB2 COMMENT ON TABLESPACE HPS_SPACE1 IS 'HPS Table Space'

DB2 GRANT USE OF TABLESPACE HPS_SPACE1 TO PUBLIC

DB2 CREATE SYSTEM TEMPORARY TABLESPACE HPS_TEMP PAGESIZE 32 K MANAGED BY
SYSTEM USING ('%TMPFILE%') EXTENTSIZE 32 OVERHEAD 24.1 PREFETCHSIZE 32
TRANSFERRATE 0.9 BUFFERPOOL HPS_BP DB2 COMMENT ON TABLESPACE HPS_TEMP IS 'HPS
Temporary Table Space'

DB2 TERMINATE

DB2STOP

```

- 3 name.bat としてファイルを保存します。
- 4 コマンド・センターから、スクリプトを実行します。
- 5 「Windows 2003 ユーザー」: 次の手順を実行します:
  1. 「コントロールパネル」、「コンピュータの管理」、「ユーザーとグループ」の順に選択します。
  2. 「ユーザー・アカウント」ボックスの「詳細」をクリックします。
  3. 「DB2Admin」を選択し、右クリックして、「プロパティ」を選択します。
  4. 「プロパティ」ボックスで「メンバー」を選択します。
  5. 「ユーザー」を選択し、「削除」、「保存」の順にクリックします。

## Web アプリケーション・サーバーの準備

多くの EPM System 製品には、Web アプリケーション・サーバーが必要です。アプリケーション・サーバーを必要とする製品を特定するには、[15 ページの「アーキテクチャ」](#)を参照してください。サポートされているアプリケーション・サーバーのリストを確認するには、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックス(<http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html>)を参照してください。

統合する EPM Workspace とアプリケーションを同じアプリケーション・サーバー・タイプに配置する必要があります。たとえば、EPM Workspace を Oracle WebLogic Server に配置する場合は、Performance Management Architect も WebLogic Server に配置する必要があります。

## 一般的な注意事項

- アプリケーション・サーバーを配置する場合、EPM System 製品はスペースを含む名前のディレクトリにインストールできません。たとえば、c:\Program Files は使用できません(ショート・パス表記を使用する場合を除く)。
- 自動配置の場合は、EPM Workspace が配置されるのと同じマシンに Web サーバーを置く必要があります。
- EPM System と Web アプリケーション・サーバーをインストールして実行するために別のオペレーティング・システム(OS)のアカウントを使用する場合は、Web アプリケーション・サーバーの OS アカウントが許可されている必要があります:
  - Hyperion ホーム・ディレクトリ、すべてのサブディレクトリ、およびその中のファイルへの読取りアクセス
  - HYPERION\_HOME/logs への書込みアクセス



さらに、自動配置を使用する場合、EPM System の OS アカウントにはアプリケーション・サーバーのファイルとディレクトリへの書込みアクセスが許可されている必要があります。

- すべての Web アプリケーションで、セッション・タイムアウトが 10 分を超えるように設定します。

## Oracle Application Server

AIX システムのアプリケーション・サーバーのインストール・ディレクトリにルート・アクセスが可能なことを確認します。

UNIX システムでは、Oracle Application Server のインストールに使用したユーザーと同じユーザーを使用して EPM System 製品をインストールして構成する必要があります。

EPM System コンポーネントを分散環境の Oracle Application Server に配置する場合、Oracle Application Server のすべてのインスタンスに次の要件があります：

- 同じクラスタ・トポロジに存在する
- Application Server Control(Administration OC4J インスタンス)の単一のインスタンスを使用して、クラスタ内のすべてのインスタンスを管理する
- サポートされている Web サーバーを使用して、J2EE コンテナに要求をルーティングする(OC4J インスタンス)

**注：** EPM System のこのリリースの自動配置でサポートされるのは Oracle HTTP Server (OHS)のみで、EPM Workspace が配置されるのと同じマシンに存在する必要があります。他の Web サーバーに対しては、手動配置を使用する必要があります。詳細は、『Oracle(R) Application Server 管理者ガイド』のクラスタ・トポロジの構成に関する項を参照してください。

EPM System コンフィグレータによる Web アプリケーション・サーバーの配置タスクの構成で、高度な設定機能を使用し、論理アドレスを使用してアクセスを構成します。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』のアプリケーション・サーバーの配置: Oracle AS に関する項と『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System マニュアル配置ガイド』を参照してください。

**注：** Planning の論理アドレスは、EPM System コンフィグレータの Planning クラスタの管理のタスクを使用して定義されます。

## Embedded Java コンテナ

- Oracle には、EPM System 製品の配置に使用するインストール・メディアに含まれる Embedded Java コンテナがあります。Oracle では、EPM System インストールの外部で使用する Embedded Java コンテナのアプリケーション・サーバーをサポートしていません。

- 自動配置の場合は、EPM Workspace が配置されるのと同じマシンに Web サーバーを置く必要があります。

## WebLogic Server

- WebLogic Server のインストール・パスにスペースが含まれていると、EPM System 製品は WebLogic Server への配置を行うことができません。インストール・パスにスペースが含まれていないことを確認してください。
- EPM System 製品をインストールする前に、WebLogic Server 9.1 から WebLogic Server 9.2.x にアップグレードする場合は、BEA の手順に従ってアプリケーションの環境を移行する必要があります: <http://edocs.bea.com/common/docs92/upgrade/upgrading9091.html>。この手順は、HYPERION\_HOME/deployments/WebLogic9 ディレクトリ内のドメインで実行します。
- 自動配置の場合は、EPM Workspace が配置されるのと同じマシンに Web サーバーを置く必要があります。
- WebLogic Server をインストールするときに、Reporting and Analysis に必要なプラグイン(インストールのオプション・コンポーネント)も必ずインストールしてください。
- すべての EPM System 製品を 1 台のマシン上の Oracle WebLogic Server に配置する場合は、6GB の RAM が推奨されます。
- ライフサイクル管理を実行し、多数の要求を処理している場合、WebLogic の Accept Backlog パラメータのサイズを増やす必要がある場合があります。このパラメータを使用すると、追加の要求を拒否するまでに WebLogic Server インスタンスが受け入れる接続要求数を調整できます。このパラメータの詳細は、WebLogic のドキュメントを参照してください。これは、Shared Services に対してのみ必要です。

## IBM WebSphere

- UNIX プラットフォームでは、配置する EPM System 製品のインストールおよび構成を行うユーザー・アカウントに WebSphere プロファイルの作成権限が必要です。非 root ユーザーとして WebSphere プロファイルを作成する権限を付与する詳細手順は、IBM InfoCenter を参照してください。
- WebSphere のインストール・パスにスペースが含まれていると、EPM System 製品は WebSphere への配置を行うことができません。Windows では、WebSphere のデフォルトのインストール・パスは Program Files/IBM/WebSphere です。インストール・パスを変更してスペースが含まれないようにしてください。
- 自動配置の場合は、EPM Workspace が配置されるのと同じマシンに Web サーバーを置く必要があります。
- IBM WebSphere 6.1.x の補足コンポーネント CD からプラグインをインストールします。プラグインは Reporting and Analysis に必要です。

- WebSphere をインストールする場合、WebSphere Application Server Network Deployment の Web Services Gateway コンポーネントをインストールしないでください。Web Services Gateway コンポーネントでは SOAP 1.1 フォーマットのメッセージが求められますが、EPM System で生成されるメッセージは SOAP 1.0 フォーマットです。
- リリース 9.3.x から EPM System 製品をアップグレードし、WebSphere 6.0.x も WebSphere 6.1.x にアップグレードしている場合は、EPM System 製品のインストール後、EPM System コンフィグレータで構成する前にアプリケーション環境を移行する必要があります。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』のアップグレード構成の前提条件に関する項を参照してください。

## Web サーバーの準備

サポートされている Web サーバーのリストを表示するには、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックス(<http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html>)を参照してください。

自動配置の場合は、EPM Workspace が配置されるのと同じマシンに Web サーバーを置く必要があります。

EPM System 製品とともに Web サーバーを構成するための補足情報は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System マニュアル配置ガイド』の Web サーバーのルーティングの構成に関する項を参照してください。

## Oracle HTTP Server

Web サーバーとして Oracle HTTP Server (OHS)を使用している場合は、OHS Web サーバーの構成ファイル(httpd.conf)で、ThreadsPerChild パラメータのデフォルト値を 50 から 512 に増やしてください。

## Microsoft Internet Information Services

次の製品は、EPM System 製品を構成する前に、ASP .NET サポートを使用可能にした IIS をインストールしておく必要があります:

- Performance Management Architect サービス(次元サーバー)
- Financial Management
- Strategic Finance
- FDM
- Data Relationship Management

IIS に関する注意:

- .NET が検出されない場合は、インストール・プログラムによってインストールされます。
- Windows 2008 を使用している場合は、IIS を必要とする EPM System 製品をインストールする前に、ASP ロール・サービスをインストールする必要があります。Windows 2008 を使用している場合は、Data Relationship Management をインストールする前に、.NET 3.5 をインストールする必要があります。
- 構成中に IIS を Web サーバーとして選択した場合は、Information Services Manager 経由の不明な ISAPI 拡張子をすべて許可する必要があります。

## IIS のインストールの確認

IIS のインストールを検証するには、IIS サービスが実行されていることを確認します:

- 「IIS Admin Service」
- 「World Wide Web Publishing Service」

IIS のサービスが表示されない場合は、IIS がインストールされていることを確認します。

## 既存の.NET 2.0 フレームワークの使用可能化(Windows 2003)

Performance Management Architect は、Dimension サーバーをインストールするマシンに.NET 2.0 Framework を必要とします。.NET 2.0 Framework がインストールされていない場合、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System Installer, Fusion Edition は自動的にインストールします。

Windows 2003 を使用し、.NET 2.0 がインストールされている場合、IIS で.NET 2.0 を登録して使用可能にする必要があります。

► Windows 2003 マシンで.NET 2.0 を使用可能にするには:

- 1 IIS マネージャを開きます。
- 2 左側のペインで、「Web サービス拡張」を選択します。
- 3 ASP.NET 2.0 が右ペインに表示されている場合、「ステータス」列を「許可」に設定して使用可能にします。
- 4 .NET 2.0 がインストールされ、ASP.NET 2.0 が右ペインに表示されていない場合、IIS で.NET 2.0 を登録します:
  1. コマンド・プロンプトで、C:\Windows\Microsoft.NET\Framework\v2.0.50727 ディレクトリに移動します。
  2. aspnet\_regiis.exe -iru と入力します。
  3. 手順 1、2、および 3 を繰り返します。

## 32 ビット/64 ビット Microsoft IIS 6.0 のサポート

Microsoft IIS 6.0 は、64 ビットのオペレーティング・システム上で 32 ビットのアプリケーション・ランタイムまたは 64 ビットのアプリケーション・ランタイムのいずれかをサポートするように構成できます。同時に両方をサポートするように構成することはできません。したがって、Microsoft IIS 6.0 とともに EPM System 製品をインストールして構成する場合は、一般に EPM System の Web 層のコンポーネントの 32 ビットのランタイムと 64 ビットのランタイムを個別のコンピュータにインストールします。

つまり、FDM (32 ビット)と Strategic Finance (32 ビット)は、Financial Management (64 ビット)と Performance Management Architect (64 ビット)が配置されているコンピュータに配置できません。32 ビットのプラットフォームでは、EPM System のすべての製品が共存できます。

## Financial Management の Web サーバー環境

Apache Web サーバーにおける 5 分以上の応答時間を必要とする Financial Management の同期ロードでは、ProxyTimeout を IIS 要求タイムアウト(3600 秒)に設定することによって、タイムアウトを回避します。

## Web ブラウザの準備

### ブラウザの設定

ブラウザでプリファレンスとオプションを次のように設定します:

- Internet Explorer と Mozilla Firefox の場合:
  - JavaScript を使用可能にします。
  - Cookie を使用可能にします。優先設定では、コンピュータへの Cookie の保管が許可されます。最小要件では、セッションごとに Cookie が許可されます。
  - ポップアップ・ウィンドウを許可します。
- Internet Explorer の場合(Reporting and Analysis のみ):
  - ActiveX を使用可能にします。62 ページの「[ActiveX を使用可能にする \(Reporting and Analysis\)](#)」を参照してください。
  - Reporting and Analysis の Web サイトを信頼済みゾーンに追加します。たとえば Internet Explorer では、「ツール」、「インターネット オプション」、「セキュリティ」タブ、「信頼済みサイト」の順に選択して、「サイト」をクリックします。

## ActiveX を使用可能にする(Reporting and Analysis)

EPM System の Web アプリケーションが正しく機能するように使用可能するには、ActiveX テクノロジをサポートするように Internet Explorer を構成する必要があります。

EPM System 製品は、ActiveX コンポーネントをブラウザにダウンロードしません。かわりに、HTML、JavaScript および XML がクライアント・ブラウザによって送信されます。

XML のコンポーネントを使用可能にするためのガイドライン:

- Web ブラウザのセキュリティの設定で、「ActiveX コントロールとプラグインの実行」を「使用可能」に設定して、ActiveX コントロールを使用可能にします。
- 「Project Reporting and Analysis」サイトを信頼済サイトとして追加し、信頼済サイトのカスタム・セキュリティ設定を変更して、ActiveX コントロールとプラグインを実行できるようにします。
- XML の処理に必要なコントロール(MS XML パーサーと XMLHttpRequest コントロール)を定義するグループ・ポリシーを提供して、これらの「管理者の許可済」コントロールをすべてのサイトまたは選択した信頼済サイトに対して使用可能にします。
- その他のすべての ActiveX コントロールおよびプラグインは使用不可のままです。グループ・ポリシーは、信頼済ゾーン内のサイトのコントロールを使用可能にして、ゾーン別に実装できます。
- Active X が使用可能なコントロールについては、「スクリプトを実行しても安全だとマークされている ActiveX コントロールのスクリプトの実行」の設定を使用可能にします。

## この章の内容

デフォルトのポートと Shared Services レジストリ .....	63
アプリケーション・サーバーまたは Web サーバーのポートの変更 .....	64
SSL ポート .....	64
Foundation Services のポート .....	64
Essbase のポート .....	71
Reporting and Analysis のポート .....	74
Financial Performance Management アプリケーションのポート .....	76
データ管理のポート .....	80

## デフォルトのポートと Shared Services レジストリ

構成プロセス中、ほとんどの EPM System 製品では、デフォルトのポート番号が Oracle Hyperion Shared Services レジストリに自動的に移入されます。構成時に、EPM System コンフィグレータを使用して、デフォルトの番号を変更できます。マシンの各ポート番号は一意であることが必要です。(別のマシン上の同じ製品のポート番号は同じにできます。)「ポートはすでに使用されています」や「バインド・エラー」のようなエラー・メッセージが表示された場合は、ポート番号が競合している可能性があります。

デフォルトのポートがマシンですでに使用されている場合や、競合している場合、EPM System コンフィグレータは処理を続行しません。デフォルトのポート番号が変更されていない場合、ソフトウェアはデフォルトの値で構成されます。

### アップグレードについての注意

製品をアップグレードするときは、前のリリースで使用されていたポート番号が Shared Services レジストリに保持されます。たとえば、リリース 11.1.1.x より前の Shared Services Web アプリケーションのデフォルトのリスニング・ポートは 58080 でしたが、現在は 28080 です。ただし、Shared Services を 11.1.1.x にアップグレードした後は、古いポート番号である 58080 が Shared Services レジストリに保持されます。



# アプリケーション・サーバーまたは Web サーバーのポートの変更

アプリケーション・サーバーまたは Web サーバーのツール(管理コンソールまたは構成ファイル)を使用してポート番号を変更する場合は、EPM System コンフィグレータを使用してポート番号を変更し、ポート番号を Shared Services レジストリと同期化する必要があります。つまり、アプリケーション・サーバーまたは Web サーバーのツールを使用してポート番号を変更したら、EPM System コンフィグレータを実行して新しいポート番号を指定し、Oracle Hyperion Shared Services レジストリを更新します。

**注：** Oracle Application Server を使用している場合、Web アプリケーションは Oracle HTTP Server ポート(デフォルトは 7777)を介してアクセスされます。

## SSL ポート

SSL ポートの構成の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System SSL 構成ガイド』を参照してください。

## Foundation Services のポート

Oracle Hyperion(R) Foundation Services のポートの詳細は、次の項を参照してください:

- [64 ページの「Shared Services のポート」](#)
- [67 ページの「EPM Workspace のポート」](#)
- [68 ページの「構成と監視コンソールのポート」](#)
- [68 ページの「Performance Management Architect のポート」](#)
- [70 ページの「Calculation Manager Web アプリケーションのポート」](#)

## Shared Services のポート

次の表に、Shared Services Web アプリケーションのポートと、その構成場所を示します。

**表 13** Shared Services Web アプリケーションのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	28080	EPM System コンフィグレータ
SSL リスニング・ポート	28443	EPM System コンフィグレータ



ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
Embedded Java コンテナ用 シャットダウン・ポート	28081	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/ SharedServices9/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	28082	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/ SharedServices9/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

次の表に、Shared Services のデフォルトのサービス・ポートと、その構成場所を示します。

**表 14** Shared Services のデフォルトのサービス・ポート

サービス	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リモート構成モジュール	28000	リモート構成モジュール・インストール・プログラム
Oracle Hyperion(R) リモート構成モジュール	追加の動的ポート(1)	構成不可能
埋込み Shared Services ネイティブ・ディレクトリ(OpenLDAP)	28089	<ul style="list-style-type: none"> <li>UNIX: HYPERION_HOME/products/Foundation/openLDAP/startOpenLDAP.sh</li> <li>Windows: Windows レジストリ - HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/OpenLDAP/Parameters/Urls を編集</li> </ul> 別のポートで OpenLDAP を起動するには、 <a href="#">65 ページの「OpenLDAP ポートの変更」</a> を参照してください
Oracle Internet Directory (Shared Services ネイティブ・ディレクトリとして使用される場合)	389 636(SSL)	Oracle Internet Directory のドキュメントを参照してください。

## OpenLDAP ポートの変更

この手順は、OpenLDAP をデフォルト以外のポートから実行する場合に使用します。ポートは、Shared Services のユーザー・ディレクトリ管理ページで更新できません。

► OpenLDAP ポートを変更するには:

- 1 Shared Services Console にログインします。
- 2 「アプリケーション・グループ」、「Foundation」の順に展開し、「配置メタデータ」をクリックします。
- 3 「Shared Services レジストリ」、「■Foundation Services 製品 | Foundation Services Product」、「Shared Services」の順に展開します。

- 4 「Shared Services」の下で、「CSSConfig」を選択します。次に、右クリックして「編集用にエクスポート」を選択します。
- 5 ファイルをデスクトップに保存します。
- 6 エクスポートされたファイルを編集し、dirPort 値をカスタム・ポート値に変更してファイルを保存します。
- 7 Oracle Hyperion(R) Shared Services コンソールで、「CSSConfig」を右クリックして「編集後にインポート」を選択します。
- 8 参照して編集した CSSConfig.xml ファイルを検索し、「終了」をクリックします。
- 9 「Shared Services」の下で、「ネイティブ・プロバイダ・プロパティ」を選択します。次に、右クリックして Native Directory@<server>\_<default port>を選択し、「編集用にエクスポート」をクリックします。

**注：** デフォルト・ポートは、28089 または 58089 のいずれかです。

- 10 Native.Provider.properties ファイルをデスクトップに保存します。
- 11 Native.Provider.properties ファイルを編集し、28089 または 58089 からカスタム・ポートにポートを変更してファイルを保存します。
- 12 「Shared Services」の下で、「ネイティブ・プロバイダ・プロパティ」を選択します。次に、右クリックして Native Directory@<server>\_<default port>を選択し、「編集後にインポート」をクリックします。

**注：** デフォルト・ポートは、28089 または 58089 です。

- 13 参照して編集した Native.Provider.properties ファイルを検索し、「終了」をクリックします。
- 14 すべての EPM System 製品を停止します。
- 15 OpenLDAP を含め、Shared Services を停止します。

Windows の場合:

1. regedit コマンドを入力して、Windows レジストリ・エディタを開きます。
2. HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\OpenLDAP\Parameters に移動し、ldap://:28089 または ldap://:58089 から ldap://:<custom port>に「URL 文字列値」を変更します。

UNIX の場合:

1. <HYPERION\_HOME>/products, Foundation/openLDAP ディレクトリの下で、startOpenLDAP.sh を検索します。
2. 既存のポート(28089 または 58089)をカスタム・ポートに置換してファイルを編集します。次に、変更を保存します。

- 16 OpenLDAP および Oracle Hyperion(R) Shared Services を再起動します。
- 17 その他のすべての Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System 製品を再起動します。

## EPM Workspace のポート

次の表に、EPM Workspace のデフォルトのサービス・ポートと、その構成場所を示します。

表 15 EPM Workspace のデフォルトのサービス・ポート

サービス	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
Foundation のポート: <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル・サービス・マネージャ(GSM)</li> <li>コア・サービス</li> <li>サービス・ブローカ</li> <li>ジョブ・サービス</li> <li>イベント・サービス</li> <li>リポジトリ・サービス</li> </ul>	6800 - 6810  この表に一覧されている各サービスは、デフォルトの範囲である 6800 から 6810、または構成中に指定された範囲のいずれかの範囲内のポートに割り当てられます。  各サービスに割り当てられたポートを特定するには、構成と監視コンソールを使用します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>EPM System コンフィグレータ</li> <li>構成と監視コンソール</li> </ul>
注釈サービス	8199	構成と監視コンソール

次の表に、EPM Workspace Web サーバー・ポートと、その構成場所を示します。

表 16 EPM Workspace Web サーバー・ポート

サーバー	デフォルトのサーバー・ポート	構成可能な場所
Apache および IBM HTTP サーバー	19000	WEB_SERVER_HOME/conf/httpd.conf
IIS および Oracle HTTP Server	80 443 (SSL)	Microsoft Internet Information Services (IIS) Manager Console。 TCP ポート値の設定を変更します。

次の表に、Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition Web アプリケーションのポートと、その構成場所を示します。

表 17 EPM Workspace Web アプリケーションのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	45000	EPM System コンフィグレータ
追加のリスニング・ポート(1)	動的	構成不可能
SSL リスニング・ポート	45043	EPM System コンフィグレータ
Embedded Java コンテナ用 シャットダウン・ポート	45001	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/ Workspace/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	45002	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/Workspace/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

## 構成と監視コンソールのポート

次の表に、構成と監視コンソールのポートと、その構成場所を示します。

表 18 構成と監視コンソールのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
構成と監視コンソールの UI	55000	HYPERION_HOME/common/workspacert/9.5.0.0/ui/conf/server.xml
構成と監視コンソールのエージェント	6860	構成と監視コンソール

## Performance Management Architect のポート

次の表に、Performance Management Architect Web アプリケーションのポートと、その構成場所を示します。

表 19 Performance Management Architect Web アプリケーションのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
<b>Performance Management Architect の UI</b>		
リスニング・ポート	19091(SSL 用に構成可能)	EPM System コンフィグレータ
SSL リスニング・ポート	19047	EPM System コンフィグレータ
Embedded Java コンテナ用 シャットダウン・ポート	19092	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/EPMAWebServer/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	19093	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/EPMAWebServer/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。
<b>データ・シンクロナイザ Web サービス(Performance Management Architect)</b>		

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	19101 (SSL 用に構成可)	EPM System コンフィグレータ
SSL リスニング・ポート	19145	EPM System コンフィグレータ
Embedded Java コンテナ用 シャットダウン・ポート	19102	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/ EPMDataSynchronizer/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	19103	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/ EPMDataSynchronizer/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

次の表に、Performance Management Architect 次元サーバーのデフォルトのサービス・ポートと、その構成場所を示します。

**表 20** Performance Management Architect 次元サーバーのデフォルトのサービス・ポート

サービス	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
サーバー・マネージャ	5250	HYPERION_HOME/products/Foundation/BPMA/AppServer/DimensionServer/ ServerEngine/bin/BPMA_Server_Config.xml  <ServerManagerPort>portNumber</ServerManagerPort>
プロセス・マネージャ	5251	HYPERION_HOME/products/Foundation/BPMA/AppServer/DimensionServer/ ServerEngine/bin/BPMA_Server_Config.xml  <Port>portNumber</Port>  Web サービス・ディレクトリ下の web.config ファイル  <appSettings>パラメータ  <add key="ProcessManagerPort" value="portNumber" />
イベント・サブスクリプション	5252	HYPERION_HOME/products/Foundation/BPMA/AppServer/DimensionServer/ ServerEngine/bin/BPMA_Server_Config.xml  <EventSubscriptionPort>portNumber</EventSubscriptionPort>
イベント・マネージャ	5253	HYPERION_HOME/products/Foundation/BPMA/AppServer/DimensionServer/ ServerEngine/bin/BPMA_Server_Config.xml  <EventManagerPort>portNumber</EventManagerPort>
ジョブ・マネージャ	5254	HYPERION_HOME/products/Foundation/BPMA/AppServer/DimensionServer/ ServerEngine/bin/BPMA_Server_Config.xml  <JobManagerPort>portNumber</JobManagerPort>

サービス	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
エンジン・インスタンス	5100-5140	HYPERION_HOME/products/Foundation/BPMA/AppServer/DimensionServer/ServerEngine/bin/BPMA_Server_Config.xml  <MinEnginePort>portNumber</MinEnginePort>  <MaxEnginePort>portNumber</MaxEnginePort>
Net JNI Bridge	5255	HYPERION_HOME/products/Foundation/BPMA/AppServer/DimensionServer/ServerEngine/bin/BPMA_Server_Config.xml  <NetJNIBridgePort>portNumber</NetJNIBridgePort>

**注：** 次元サーバーのサービスで、直接開始できるのはプロセス・マネージャのみです。

### アップグレードについての注意

次元サーバーのサービス・ポートは今回のリリースで変更されました。Performance Management Architect のアップグレード中に、古いポート番号は今回のリリースの新しいデフォルトのポート(前述のポート)に変更されます。必要に応じて、古いポート番号を使用するようにポートを変更できます。

次の表に、Oracle Hyperion EPM Architect, Fusion Edition Web サーバーのデフォルトのサービス・ポートと、その構成場所を示します。

**表 21** Performance Management Architect Web サーバー・ポート

デフォルトの Web サーバー・ポート	構成可能な場所
80	Microsoft Internet Information Services (IIS) Manager Console。TCP ポート値の設定を変更します。

## Calculation Manager Web アプリケーションのポート

次の表に、Hyperion Calculation Manager Web アプリケーションのポートと、その構成場所を示します。

**表 22** Calculation Manager Web アプリケーションのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	8500	EPM System コンフィグレータ
シャットダウン・ポート	8501	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/calcmgr/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	8502	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/calcmgr/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

## Essbase のポート

Oracle Essbase のポートの詳細は、次の項を参照してください:

- [71 ページの「Essbase のポート」](#)
- [72 ページの「Administration Services のポート」](#)
- [72 ページの「Provider Services のポート」](#)
- [73 ページの「Smart Search Command Line Utility のポート」](#)
- [73 ページの「Essbase Studio のポート」](#)

## Essbase のポート

次の表に、Essbase のデフォルトのサービス・ポートと、その構成場所を示します。

**表 23** Essbase のデフォルトのサービス・ポート

サービス	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
Essbase エージェント	1423	EPM System コンフィグレータ
Essbase サーバー・アプリケーション(ESSVR)	32768 - 33768(プロセスごとに2つのポート)	EPM System コンフィグレータ
Oracle Essbase Integration Services サーバー	3388	HYPERION_HOME/products/Essbase/eis/bin/ais.cfg -pポート番号を追加

**注：** 11.1.1 以降のリリースの開始では、Oracle Essbase のポート番号を EPM System コンフィグレータで指定しないと、デフォルトのポートが使用されます。

**注：** 1 台のコンピュータに Essbase サーバーの複数のインスタンスがインストールされている場合は、インスタンスごとに一意のポート番号を指定する必要があります。デフォルトでは、Essbase サーバーの最初のインスタンスは、ポート番号 1423 (EPM System コンフィグレータで指定)を使用します。2 番目のインスタンスには、構成時に EPM System コンフィグレータで別のポート番号を指定します。後続のインストールに接続するには、接続時にマシン名およびエージェント・ポート番号を `machineName:agentPort` の形式で指定して接続します。

**注：** Oracle Enterprise Linux 5 または Red Hat Linux 5 LDAP クライアントにポート競合があります(Hyperion ではすべての UNIX および Linux を LDAP 認証用に構成します)。この問題を回避するには、アプリケーション開始ポートを 1 ずつ増分するなどして変更します。詳細は、[Metalink Note 760957.1](#) を参照してください。

## Administration Services のポート

次の表に、Oracle Essbase Administration Services Web アプリケーションのポートと、その構成場所を示します。

**表 24** Administration Services Web アプリケーションのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	10080	EPM System コンフィグレータ
SSL リスニング・ポート	10083	EPM System コンフィグレータ
Embedded Java コンテナ用 シャットダウン・ポート	10081	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/eas/ conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	10082	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/eas/ conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

## Provider Services のポート

次の表に、Oracle(R) Hyperion Provider Services Web アプリケーションのポートと、その構成場所を示します。



表 25 Provider Services Web アプリケーションのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	13080	EPM System コンフィグレータ
SSL リスニング・ポート	13083	EPM System コンフィグレータ
Embedded Java コンテナ用 シャットダウン・ポート	13081	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/aps/ conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	13082	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/aps/ conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

## Smart Search Command Line Utility のポート

次の表に、Oracle Hyperion Smart Search Command Line Utility Web アプリケーションのポートと、その構成場所を示します。

表 26 Smart Search Command Line Utility Web アプリケーションのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	16080	EPM System コンフィグレータ
SSL リスニング・ポート	16843	EPM System コンフィグレータ
Embedded Java コンテナ用 シャットダウン・ポート	16081	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/ SmartSearch/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	16082	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/ SmartSearch/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

## Essbase Studio のポート

次の表に、Oracle Essbase Studio のポートと、その構成場所を示します。

表 27 Essbase Studio のポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	5300	HYPERION_HOME/products/Essbase/EssbaseStudio/Server/server.properties パラメータ: transport.port=新しいポート番号
HTTP リスニング・ポート	9080	HYPERION_HOME/products/Essbase/EssbaseStudio/Server/server.properties パラメータ: Server.httpPort=新しいポート番号

## Reporting and Analysis のポート

Oracle Hyperion Reporting and Analysis のポートの詳細は、次の項を参照してください:

- [74 ページの「Financial Reporting のポート」](#)
- [75 ページの「Interactive Reporting のポート」](#)
- [75 ページの「Web Analysis のポート」](#)

## Financial Reporting のポート

次の表に、Financial Reporting Web アプリケーションのポートと、その構成場所を示します。

表 28 Financial Reporting Web アプリケーションのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	8200	EPM System コンフィグレータ
SSL リスニング・ポート	8243	EPM System コンフィグレータ
Embedded Java コンテナ用 シャットダウン・ポート	8201	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/FinancialReporting/conf/server.xml パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	8202	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/FinancialReporting/conf/server.xml パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

次の表に、Financial Reporting のデフォルトのサービス・ポートと、その構成場所を示します。

表 29 Financial Reporting のデフォルトのサービス・ポート

サービス	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
Financial Reporting レポート・サービス	動的(2)	HYPERION_HOME/products/biplus/lib/fr_repserver.properties パラメータ: HRRepSvrPort1、HRRepSvrPort2
Financial Reporting スケジューラ・サービス	動的	HYPERION_HOME/products/biplus/lib/fr_scheduler.properties パラメータ: HRSchdSvrPort
Financial Reporting 印刷サービス	動的	HYPERION_HOME/products/biplus/lib/fr_printserver.properties パラメータ: HRPrintSvrPort
Oracle Hyperion Financial Reporting, Fusion Edition 通信サービス	8299	HYPERION_HOME/products/biplus/lib/fr_global.properties パラメータ: RMIPort
Planning データ・ソース・アクセス用リモート ADM サーバー・ポート	動的	レポート・サーバー・マシンの HYPERION_HOME/common/ADM/VERSION/lib/ADM.propertiesファイル パラメータ: ADM_RMI_SERVER_PORT

## Interactive Reporting のポート

次の表に、Interactive Reporting のデフォルトのサービス・ポートと、その構成場所を示します。

表 30 Interactive Reporting のデフォルトのサービス・ポート

サービス	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
<ul style="list-style-type: none"> <li>データ・アクセス・サービス(DAS)</li> <li>Oracle Hyperion(R) Interactive Reporting サービス (Intelligence およびジョブ・サービス)</li> <li>ロギング・サービス</li> </ul>	<p>6810 - 6816</p> <p>この表に一覧されている各サービスは、デフォルトの範囲である 6810 から 6816、または構成中に指定された範囲のいずれかの範囲内のポートに割り当てられます。</p> <p>各サービスに割り当てられたポートを特定するには、構成と監視コンソールを使用します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EPM System コンフィグレータ</li> <li>構成と監視コンソール</li> </ul>

## Web Analysis のポート

次の表に、Oracle Hyperion(R) Web Analysis Web アプリケーションのポートと、その構成場所を示します。

表 31 Web Analysis Web アプリケーションのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	16000	EPM System コンフィグレータ
追加のリスニング・ポート(2)	動的	構成不可能
SSL リスニング・ポート	16043	EPM System コンフィグレータ
Embedded Java コンテナ用 シャットダウン・ポート	16001	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/ WebAnalysis/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	16002	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/ WebAnalysis/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

## Financial Performance Management アプリケーションのポート

Oracle Hyperion Financial Performance Management アプリケーションのポートの詳細は、次の項を参照してください:

- 76 ページの「Financial Management のポート」
- 77 ページの「Planning のポート」
- 78 ページの「Performance Scorecard のポート」
- 79 ページの「Strategic Finance のポート」
- 79 ページの「Profitability and Cost Management のポート」

## Financial Management のポート

次の表に、Financial Management のデフォルトのサービス・ポートと、その構成場所を示します。

表 32 Financial Management のデフォルトのサービス・ポート

サービス	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
Financial Management アプリケーション・サーバー	135 およびエフェメラル高 範囲ポート(1024-65536)	Windows の設定 - DCOM エフェメラル・ポートを固定。  DCOM で使用するポートの設定方法は、Microsoft のサポート記事: <a href="http://support.microsoft.com">http://support.microsoft.com</a> を参照してください。「restrict DCOM port (DCOM ポートの制約)」で検索します。

次の表に、Financial Management Web サーバー・ポートと、その構成場所を示します。

**表 33** Financial Management Web サーバー・ポート

デフォルトの Web サーバー・ポート	構成可能な場所
80 (HTTP)または 443 (SSL が使用可能な場合)	Microsoft Internet Information Services (IIS) Manager Console では、TCP ポート値の設定を変更します。

次の表に、電子メール・アラート用の Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition SMTP ポートと、その構成場所を示します。

**表 34** 電子メール・アラート用の Financial Management SMTP ポート

電子メール・アラート用のデフォルト SMTP ポート	構成可能な場所
25	EPM System コンフィグレータ

## Planning のポート

次の表に、Planning Web アプリケーションのポートと、その構成場所を示します。

**表 35** Planning Web アプリケーションのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	8300	EPM System コンフィグレータ
SSL リスニング・ポート	8343	EPM System コンフィグレータ
Embedded Java コンテナ用 シャットダウン・ポート	8301	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/ HyperionPlanning/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	8302	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/ HyperionPlanning/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

次の表に、Planning のデフォルトのサービス・ポートと、その構成場所を示します。

表 36 Planning のデフォルトのサービス・ポート

サービス	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
Planning RMI サーバー	11333	<p>HYPERION_HOME/common/RMI/VersionNumber/HyperionRMI_Port.properties</p> <p>パラメータ: registryPort</p> <p>注: EPM System コンフィグレータを使用してこのポートを変更できません。</p> <p>Planning RMI サーバー・ポートを変更するには:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. HYPERION_HOME/common/RMI/9.5.0.0/HyperionRMI_Port.properties ファイルで、registryPort 値を新規ポート番号に変更します。</li> <li>2. Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition で、「管理」、「プロパティの管理」、「システム・プロパティ」の順に選択します。</li> <li>3. 新規パラメータ COMMON_RMI_PORT を追加し、HYPERIONRMI_Port.properties に入力したのと同じポート値を指定します。これにより、HSPSYS_PROPERTIES データベースが更新されます。</li> <li>4. Hyperion RMI レジストリ・サービスを再起動します。</li> <li>5. Hyperion Planning サービスを再起動します。</li> </ol>

## Performance Scorecard のポート

次の表に、Performance Scorecard Web アプリケーションのポートと、その構成場所を示します。

表 37 Performance Scorecard Web アプリケーションのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	18080	EPM System コンフィグレータ
SSL リスニング・ポート	18443	EPM System コンフィグレータ
Embedded Java コンテナ用シャットダウン・ポート	18081	<p>HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/HPSWebReports/conf/server.xml</p> <p>パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。</p>
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	18082	<p>HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/HPSWebReports/conf/server.xml</p> <p>パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。</p>

次の表に、Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition Alerter Web アプリケーションのポートと、その構成場所を示します。

表 38 Performance Scorecard Alerter Web アプリケーションのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	18090	EPM System コンフィグレータ
SSL リスニング・ポート	18444	EPM System コンフィグレータ
Embedded Java コンテナ用 シャットダウン・ポート	18091	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/ HPSAlerter/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	18092	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/ HPSAlerter/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

## Strategic Finance のポート

次の表に、Strategic Finance のデフォルトのサービス・ポートと、その構成場所を示します。

表 39 Strategic Finance のデフォルトのサービス・ポート

サービス	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
Strategic Finance サーバー	7750	EPM System コンフィグレータ  注： このポートを変更する場合は、「接続」ダイアログ・ボックスで、各 Strategic Finance クライアントのポートも変更する必要があります。

次の表に、Oracle Hyperion Strategic Finance, Fusion Edition Web サーバー・ポートと、その構成場所を示します。

表 40 Strategic Finance Web サーバー・ポート

デフォルトの Web サーバー・ポート	構成可能な場所
80(HTTP)または 443(HTTPS)	Microsoft Internet Information Services (IIS) Manager Console。(TCP ポート値の設定を変更します。)

## Profitability and Cost Management のポート

次の表に、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management, Fusion Edition のポートと、その構成場所を示します。

表 41 Profitability and Cost Management のデフォルトのポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	6756	EPM System コンフィグレータ
追加のリスニング・ポート	動的	構成不可能
SSL リスニング・ポート	6743	EPM System コンフィグレータ
Embedded Java コンテナ用シャットダウン・ポート	6757	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/Profitability/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。
Embedded Java コンテナ用 AJP コネクタ・ポート	6758	HYPERION_HOME/deployments/AppServNameAndVersion/Profitability/conf/server.xml  パラメータについては、アプリケーション・サーバーのドキュメントを参照してください。

## データ管理のポート

Oracle データ管理のポートの詳細は、次の項を参照してください。

- 80 ページの「FDM のポート」
- 81 ページの「Data Relationship Management のポート」

## FDM のポート

次の表に、FDM のデフォルトのサービス・ポートと、その構成場所を示します。

表 42 FDM のデフォルトのサービス・ポート

サービス	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
FDM ロード・バランサ、FDM アプリケーション・サーバー	135 およびエフェメラル高範囲ポート (1024-65536)	Windows の設定 - DCOM エフェメラル・ポートを固定。  DCOM で使用するポートの設定方法の詳細は、Microsoft のサポート記事: <a href="http://support.microsoft.com">http://support.microsoft.com</a> を参照してください。「restrict DCOM port(DCOM ポートの制約)」で検索します。
ファイル共有	137-139, 445	オペレーション・システムが制御します。デフォルトでは、すべての FDM アプリケーション・サーバーとデータ・サーバー間でファイル共有が使用可能です。デフォルトのポート番号は次のとおりです： <ul style="list-style-type: none"> <li>● NetBIOS Datagram Service = 138 番ポート</li> <li>● NetBIOS Name Resolution = 137 番ポート</li> <li>● NetBIOS Session Service = 139 番ポート</li> </ul> NetBIOS がオフになっている場合は、SMB = 445 番ポートを使用します。



サービス	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
ファイアウォール	135 およびエフェメラル高範囲ポート (1024-65536)	Windows の設定 - DCOM エフェメラル・ポートを固定。 DCOM で使用するポートの設定方法の詳細は、Microsoft のサポート記事: <a href="http://support.microsoft.com">http://support.microsoft.com</a> を参照してください。「restrict DCOM port(DCOM ポートの制約)」で検索します。

**注：** FDM では、DMZ 環境で実行している場合に、DCOM ポート 135 が開いている必要があります。

次の表に、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Fusion Edition Web サーバー・ポートと、その構成場所を示します。

**表 43** FDM Web サーバー・ポート

デフォルトの Web サーバー・ポート	構成可能な場所
80(HTTP)または 443(HTTPS)	Microsoft Internet Information Services (IIS) Manager Console。(TCP ポート値の設定を変更します。)

## ERP Integrator のポート

次の表に、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management ERP Integration Adapter for Oracle Applications Web アプリケーション・ポートと、その構成場所を示します。

**表 44** ERP Integrator Web アプリケーション・ポート

ポート・タイプ	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
リスニング・ポート	6550	EPM System コンフィグレータ
SSL リスニング・ポート	6553	Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System コンフィグレータ

## Data Relationship Management のポート

次の表に、Data Relationship Management のデフォルトのサービス・ポートと、その構成場所を示します。

**表 45** Data Relationship Management のデフォルトのサービス・ポート

サービス	デフォルトのポート番号	構成可能な場所
Data Relationship Management	135 およびエフェメラル高範囲ポート (1024-65536)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● config.xml、Data Relationship Management コンソールを使用</li> <li>● Windows の設定 - DCOM エフェメラル・ポートを固定。</li> </ul> <p>DCOM で使用するポートの設定方法の詳細は、Microsoft のサポート記事:<a href="http://support.microsoft.com">http://support.microsoft.com</a> を参照してください。「restrict DCOM port(DCOM ポートの制約)」で検索します。</p>

次の表に、Oracle Hyperion Data Relationship Management, Fusion Edition Web サーバー・ポートと、その構成場所を示します。

**表 46** Data Relationship Management Web サーバー・ポート

デフォルトの Web サーバー・ポート	構成可能な場所
80 (HTTP) 443 (HTTPS)	Microsoft Internet Information Services (IIS) Manager Console。(TCP ポート値の設定を変更します。)

# 索引

## 記号

.NET のインストール, 60

## A - Z

### ActiveX

使用可能にする, 62

### Administration Services

デフォルト・ポート, 72

リリースの互換性, 36

### BI Publisher , 11

### Calculation Manager

デフォルト・ポート, 70

リリースの互換性, 34

### Data Integration Management

リリースの互換性, 42

### Data Relationship Management

デフォルト・ポート, 81

リリースの互換性, 42

### Embedded Java コンテナ, 57

### アーキテクチャ、EPM System, 15

### EPM System 製品の概要, 11

### 層、EPM System のアーキテクチャ, 15

### EPM Workspace

デフォルト・ポート, 67

リリースの互換性, 34

### ERP Integrator

デフォルト・ポート, 81

リリースの互換性, 42

### Essbase

デフォルト・ポート, 71

リリースの互換性, 36

### Essbase Studio

デフォルト・ポート, 73

リリースの互換性, 36

### FDM

デフォルト・ポート, 80

リリースの互換性, 42

### Financial Management

デフォルト・ポート, 76

リリースの互換性, 40

### Financial Reporting

デフォルト・ポート, 74

リリースの互換性, 38

### Foundation Services

デフォルト・ポート, 64

リリースの互換性, 33

### IBM DB2 データベースの要件, 51

サイズ, 52

テーブルスペース, 52

役割と権限, 51

### IIS, 59

### Integration Services

リリースの互換性, 36

### Interactive Reporting

デフォルト・ポート, 75

リリースの互換性, 38

Java アプリケーション・サーバー。「Web アプリケーション・サーバー」を参照

### Microsoft Internet Information Services (IIS), 59

### Microsoft SQL Server のデータベース要件, 49

サイズ, 50

テーブルスペース, 50

役割と権限, 49

### Oracle Application Server, 57

ポート, 64

### Oracle BI EE , 11

### Oracle Database の要件, 46

サイズ, 47

テーブルスペース, 48

役割と権限, 46

### Performance Management Architect

デフォルト・ポート, 68

リリースの互換性, 34

### Performance Scorecard

デフォルト・ポート, 78

リリースの互換性, 40

## Planning

- デフォルト・ポート, 77
- リリースの互換性, 40

## Production Reporting

- リリースの互換性, 38

## Profitability Management

- デフォルト・ポート, 79
- リリースの互換性, 40

## Provider Services

- デフォルト・ポート, 72
- リリースの互換性, 36

## Reporting and Analysis

- デフォルト・ポート, 74
- リリースの互換性, 38

## Shared Services

- デフォルト・ポート, 64
- リリースの互換性, 33, 34

## Shared Services レジストリ

- ポート, 63

## Smart Search Command Line Utility

- デフォルト・ポート, 73

## Smart View

- リリースの互換性, 35

## SSL, 64

- 準備, 30
- ポート, 64

## Strategic Finance

- デフォルト・ポート, 79
- リリースの互換性, 40

## UTF8, 46, 51

## Web Analysis

- デフォルト・ポート, 75
- リリースの互換性, 38

## WebLogic Server, 58

## WebSphere, 58

## Web アプリケーション・サーバー, 56

- Embedded Java コンテナ, 57
- IBM WebSphere, 58
- Oracle Application Server, 57
- WebLogic Server, 58
- 一般的な注意事項, 56
- 準備, 30

## Web サーバー, 59

- Financial Management 環境, 61
- Microsoft Internet Information Services (IIS), 59
- 準備, 30

## Web ブラウザ

- 準備, 61
- 設定, 61

## あ行

アカウント、準備, 28

アップグレード

- データベースの準備, 45
- ポート番号, 63
- リリースの互換性, 33

依存関係

- EPM System ソフトウェア, 22
- インストール・ドキュメント, 9
- インストール・プランニング, 25
- インストール・プランニングのチェックリスト, 25

## か行

クラスタリング, 27

構成と監視コンソール

- デフォルト・ポート, 68

互換性, 33

## さ行

サイズのガイドライン

- IBM DB2, 52
- Microsoft SQL Server, 50
- Oracle Database, 47

サードパーティ製ソフトウェアの要件

- ライセンス, 25

製品の依存関係, 22

セキュリティの前提条件, 28

ソフトウェア、ダウンロード, 26

## た行

ダウンロード

- ソフトウェア, 26
- ドキュメント, 26

テーブルスペース

- IBM DB2, 52
- Microsoft SQL Server, 50
- Oracle Database, 48

ディスク・スペースおよび RAM の要件

- クライアント・ソフトウェア, 19
- サーバー・ソフトウェア, 20

データベース

IBM DB2 の要件, [51](#)

Microsoft SQL Server の要件, [49](#)

Oracle Database の要件, [46](#)

準備, [28](#), [45](#)

データベースの役割と権限

IBM DB2, [51](#)

Microsoft SQL Server, [49](#)

Oracle Database, [46](#)

データベースの要件

IBM DB2, [51](#)

Microsoft SQL Server, [49](#)

Oracle Database, [46](#)

ドキュメント

インストールおよび配置, [9](#)

ダウンロード, [26](#)

## は行

ハードウェアの準備, [26](#)

ファイアウォール, [28](#)

フェイルオーバー, [27](#)

ブラウザ, [61](#)。「Web ブラウザ」も参照

プラットフォームのサポート

Windows のみ, [17](#)

ポート, [63](#), [64](#)

アップグレード時, [63](#)

変更, [64](#)

## ら行

ランタイム・クライアントの要件, [23](#)

リリースの互換性, [33](#)

